③ 児童生徒の障害理解教育パッケージ

Ver.05

【Package1】 学年等を単位とした講演

【Package2】 学級活動や道徳等の授業

群馬県教育委員会特別支援教育課
令和３年８月

この冊子は、平成２６年度～令和２年度エリアサポートモデル校（発達障害理解推進拠点事業を含む。）における実践研究の成果をまとめ、他の小中学校等にも普及させる目的で作成しました。

「パッケージ」とは、特別支援教育に係る取組の内容及び方法、連絡・調整の手順や情報など、関連する様々な要素を冊子にまとめたものの名称として使っています。

「学校サポートパッケージ」は、発達障害等のある児童生徒への対応として、実態把握や校内体制、外部機関への依頼、相談支援、授業改善の視点など、一連の手順とその内容を包括した資料としてまとめ、学校で活用できる形にしたものです。

＜パッケージの種類＞

１　学校サポートパッケージ

２　教員研修パッケージ

３　児童生徒の障害理解教育パッケージ（本冊子）

４　保護者向け研修会・講演会パッケージ

3　児童生徒の障害理解教育パッケージ　目次

【Package1】学年等を単位とした講演

Data1　学年単位で3回の講演会を実施（H26年度）

→【資料1】実施要項及び講演の企画（Step1～4） ---------- 2

Data2　これまで県が依頼した本事業に係る講師一覧（再掲）

→【資料2】本事業に係る講師一覧（再掲） ---------- 7

【Package2】学級活動や道徳等の授業

Data1　6年生各学級で学級活動の授業を実施（H26年度）

→【資料3】実施要項及び授業の企画（Step1～5） ---------- 16

Data2　4年生（単学級）で道徳の授業を実施（H26年度）

→【資料4】実施要項及び授業案 ---------- 20

Data3　5･6年生で学級活動の授業を実施（H26年度）

→【資料5】実施要項及び授業の企画（Step1～4） ---------- 22

Data4　3･4年生（単学級）で道徳の授業を実施（H27年度）

→【資料6】授業の企画及び授業案等（Step1～4） ---------- 26

Data5　6年生で学級活動の授業を実施（H27年度）

→【資料7】授業の企画及び授業案等（Step1～6） ---------- 33

Data6　学校全体で同じ時期に授業を実施（H27年度）

→【資料8】実施要項及び企画、授業案（Step1～3） ---------- 42

Data7　中学1年生で道徳の授業を実施（H30年度）

→【資料9】道徳学習指導案 ---------- 50

※　障害理解教育は、児童生徒を対象とした活動であり、次の2パターンを提示

○　外部講師等による講演の実施

○　学級活動や道徳等の授業や、学級単位でのエクササイズ等の実施

※　所属名「特別支援教育課」は、H28年度から。（それ以前は「特別支援教育室」）

【資料1】実施要項及び講演会の企画(Step1～4)

学年単位で3回の講演会を実施

○○中学校　障害理解教育　実施要項

１　目　的

○　学校教育活動全体を通じた生徒への発達障害理解を図ること。

○　障害のある生徒と障害のない生徒が共に学び合える学校づくりについて、共通理解を図ること。

２　主　催　　○○中学校
　　群馬県教育委員会特別支援教育室

３　期　日　　平成２６年１２月１８日（木）

４　会　場　　○○中学校　集会室

５　内容等

○　障害理解教育の実施（学年単位で計３回の講演を行う）

○　講演テーマ　　「自信をもって生きよう　－自己肯定感を高めるために－」
　　講　　師　　国立のぞみの園　診療部長　　有賀　道生　様

６　日　程

９：４５～１０：３５　　１年：生徒２５６人対象
１０：４５～１１：３５　　２年：生徒２５０人対象
１１：４５～１２：３５　　３年：生徒２８１人対象

＜Step1＞ 基本構想

・　学年別に計3回の50分授業（講演）を行う。

・　学年目標、道徳教育、人権教育を勘案するなどして、学年・発達段階における授業（講演）内容になるようにしたい。

・　学年ごとの御意見・御意向をいただき、その後、〇〇〇中学校と相談の上、モデルプラン（草案）を修正して成案にする又は新たにモデルプラン（草案）を作成し、講師に伝えるようにしたい。

・　「発達障害理解教育の実践に当たっては、こんなやり方もあります」というモデルの1つとして、将来的に県内に紹介することを考えている。

＜Step2＞ モデルプラン（草案）

（1）　目標について

例1）　学習障害のある人の存在に気付き、共に社会で生きる気持ちをもつ。

例2）　学習障害が存在することを知り、体験的に理解する。

例3）　どのようにすれば障害者問題を解決できるのかを考える。

例4）　自己肯定感の大切さを理解する。

例5）　どのようにすれば自己肯定感を高めることができるかを理解する。

（2）　内容について

例6）　医師を志した理由、高校・大学等で影響を受けた人、診療所での仕事、患者さんたちの困り感、社会への希望などの話題をとおして、学年ごとに以下のようなポイントから内容を深め、発達障害理解を促していく。

【3年】人にはそれぞれに特性があること、自分の特性を伸ばすチャンスがあれば必ず成功できること、そのためには自分自身をよく知ることが大切、自分自身をよく知るためには他者のよさを見つけられることが大切、共生社会を築くことの価値など

【2年】人という存在は尊いこと、それぞれが悩みを抱えていること、誘惑を断ち切る勇気を持つこと、仲間と協力すること、将来をより楽しく過ごすために必要なことなど

【1年】心配なことや不安に思うこと、ストレスを感じること、自分を大切にすること、相談すること、相談すると変わること、友だちのよさを見つけると自分が変われることなど

（3）　まとめについて

【3年】「人生最初の分岐点」がテーマで、「目標を失わずに努力を続ける為の意識をもつ」「悩みとそれを乗り越えるスキル」について述べる。

【2年】「人を信じることができるか」がテーマで、「自分の未知数を知ろうとする姿勢をもつ」「誘惑を断ち切る勇気をもつ」について述べる。

【1年】「頼りになる人を見つけよう」がテーマで、「困っている友だちの存在を意識する」「共に生きることが大切である」について述べる。

＜Step3＞ 学年別希望調査

「学年別希望調査」

1　各学年の子どもたちに聞かせたい内容等（意見・意向・案等）

（1）　目標について

【　　年】意見・意向・案等

（2）　内容について

【　　年】意見・意向・案等

2　各学年からの要望・希望等

【　　年】要望・希望等

＜参考例＞　発達障害理解教育を進める上での不安や講師への期待

※　「学年別希望調査」に回答いただく際、参考までに御覧ください。

【不安に思うことはありますか。】

□　発達障害等の生徒に対し、周りの生徒が障害のある者と見なすようにならないか心配である。

□　周囲の生徒から、発達障害の生徒や診断は出ていないものの発達障害に近い特性のある生徒に対し、どのような反応が現れるか心配である。

□　発達障害等の生徒が不安にならないか心配である。

□　当該生徒が発達障害の話題をどうとらえるか心配である。

□　話題の提示で当該生徒が傷つくような状況が起きないか心配である。

【講師に期待することは何ですか】

□　発達障害全般について知らせてほしい。

□　視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、身体虚弱、発達障害など、様々な障害について説明してほしい。

□　発達障害のうち、学習障害のみを話題としてほしい。

□　発達障害の特性を生かして積極的に社会参加を果たしている人物の紹介や、具体的な問題解決の方向性を示すなど、発達障害に対するプラスイメージを持たせてほしい。

□　様々な障害や発達障害について、知りたい、理解を深めたいと思うようにしてほしい。

□　悩む子ども自身の立場からの言葉や、「どう理解したらよいのか」「どのように接したらよいのか」という視点から、サポーターへの助言もしてほしい。

□　直接子どもとかかわってきた経験を生かし、生徒が納得して受け入れるような語りかけや接し方とともに、科学的な話も加味して、心情的にも論理的にも理解を促してほしい。

□　一人一人に個性や可能性があることの理解や、他者をありのままに受け入れ、自分自身を見つめさせることが重要であることが納得できるような話をしてほしい。

□　世界で活躍中の学習障害のある人物の出演する番組のVTRを活用するなど、より具体的に発達障害についての理解を図ってほしい。

□　「見えにくさ」「聞こえにくさ」の体験や、分かりにくいことによる不安やストレスなどの感情体験を通して、例えば学習障害という障害の存在とその障害のある人の生きにくさについての理解を促してほしい。

□　「受け入れられる体験」により自尊感情がもたらされるという疑似体験を取り入れるなど、人ごととはせず自身の問題としても考えさせるような構成、内容をお願いしたい。

□　パワーポイントを利用する、アニメーションや音声を活用するなど、視覚的・聴覚的な擬似体験のプログラムを設定してほしい。

□　座位でできる疑似体験（目を閉じて住所、氏名を書く。利き手と反対の手ではさみを使って紙を切る等）に取り組ませるなど、障害者の不自由さ等についての体験活動を実施してほしい。

□　「苦手なものがあっても、どんどん個性を伸ばしていけばよい」「友だちに苦手なことがあってもばかにしないようにしたい」と児童生徒に思わせる内容にするための工夫は何か。

□　「学習障害のある人でも、自分の得意なことを最大限に生かして仕事をやっているから、私も得意なことを伸ばしていって、自分の好きな仕事につきたい。」と児童生徒に思わせる内容にするための工夫は何か。

□　「○○がなぜ特別支援学級にいるのか知ることができた。今後も○○のことを考えてあげたい。」と思わせる内容にするための工夫は何か。

＜Step4＞　成案(概要)作成

概要説明

【3学年共通】

・　医師を志した理由等プロフィールを述べる

・　健康教育について、医師の見地から述べる(特に、「睡眠」の重要性を医学的見地を持って、生徒に分かりやすく解説する)

・　学習障害について伝え、仲間としてかかわることの重要性を述べる

【学年別】(まとめの話部分)

＜1年＞

・　「頼りになる人を見つけよう」がテーマで、学年意見の「困っている友だちの存在を意識すること」「共に生きることが大切であること」を述べる

＜2年＞

・　「人を信じることができるか」がテーマで、学年意見の「自分の未知数を知ろうとする姿勢を持ってほしい」「誘惑を断ち切る勇気を持つこと」を述べる

＜3年＞

・　「人生最初の分岐点」がテーマで、学年意見の「目標を見失わずに努力を続ける為の意識をもってほしい」「悩みとそれを乗り越えるスキル」を述べる

【備考】

・　当日の配付資料はなし

・　スライドについても印刷配布なし(著作権の問題のため)

【資料3】本事業に係る講師一覧(再掲)

※　ここでは、エリアサポートモデル校事業の実践研究(H26～R2)において、県教育委員会が依頼した講師と、講義演題等の実績を一覧にして示している。
※　講師の所属や職については、当該年度時点のものである。
※　今後、各学校園が、研修計画を立案するに当たり、講師の職業や講義内容について参考にするための一覧であり、県が派遣依頼を代行するものではない。

1　すべての教員対象研修

(1)　外部講師

大阪大学大学院(大阪大学・金沢大学・浜松歯科大学・千葉大学・福井大学) 連合小児発達学研究科　特任講師　　和久田　学　様
※　以下、講義の演題及び実施年度 ・「子どもの行動を考える　～新しい生徒指導～　」(H26) ・「発達障害等、特別な支援を要する児童の理解と支援」(H26) ・「特別支援教育に係る校内体制について」(H26) ・「子どもの育ちを考える」(H26) ・「子どもの行動を考えた新しい生徒指導」(H27) ・「子どもの行動を育て、支援する」(H27) ・「子どもを科学的にとらえた新しい生徒指導」(H27) ・「子どもの行動を考えた『学校としての取組』」(H27) ・「子どものこころの発達に寄り添う　～科学的根拠に基づいた支援のあり方～　」(H27)

名城大学大学院　　曽山　和彦　様
・　講義　「特別支援教育の視点と学びのユニバーサルデザイン」(H26)

NPO法人リンケージ理事長　臨床心理士　　石川　京子　様
※　以下、講義の演題及び実施年度 ・「分かりやすく伝えるために」(H26) ・「発達障害等のある生徒理解と具体的対応について」(H27) ・「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(H29) ・「子ども一人一人の理解とその支援方法」(H29) ・「発達障害のある生徒理解と対応方法について」(H30)

・「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(R1)
・「発達障害の理解と支援～本人・保護者・周りへの対応を例に～」(R1)
・「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(R2)
・「発達障害の理解と支援～本人・保護者・周りへの対応を例に～」(R2)
・「発達特性の5つグループから対応を考える」(R2)

日本大学文理学部心理臨床センター　臨床心理士　　加藤　弘美　様
※　以下、講義の演題及び実施年度 ・「『発達障害の特性理解』について」(H27) ・「発達障害の特性・理解について」(H29)

anomira代表　作業療法士　　北爪　浩美　様
※　以下、講義の演題及び実施年度 ・「発達障害のある子どもへの支援」(H27) ・「発達障害のある子どもへの支援」(H29) ・「発達障害の理解と発達障害のある子どもへの支援」(H30) ・「発達障害のある子ども理解のために知っておきたいこと」(H30) ・「発達障害のある子供への支援」(H30) ・「発達障害のある子供への支援」(R1)

日本授業UD学会　埼玉支部副代表　　笠原　三義　様
・　講義　「授業のユニバーサルデザイン」(H28)

国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　臨床心理士　　小池　千鶴子　様
※　以下、講義の演題及び実施年度 ・「子どものこころの発達に寄り添う～二次障害の実態とその予防～」(H29) ・「子どものこころの発達に寄り添う～二次障害の実態とその予防～」(H30)

(2)　特別支援教育課指導主事(専門アドバイザーと組んで実施したものを含む。)

群馬県教育委員会特別支援教育室　指導主事　　髙橋　玲
・　講義　「特別支援教育の視点を取り入れた授業の実際」(H26)

群馬県教育委員会特別支援教育室　指導主事　　井草　昌之 群馬県立吾妻特別支援学校　専門アドバイザー　　中曽根　良雄
※　以下、講義の演題及び実施年度 ・「どの子にも分かる・できるためのユニバーサルデザインの具体例・実践例の紹介」(H27) ・「わかって、楽しい授業をするために　～気になる子へのサポートから～」(H27)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　近藤　千香子
・　講義　「特別支援教育の視点を取り入れた授業」(H28)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　藤生　雅代
・　講義　「分かりやすく伝えるために」(H29)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　井草　昌之 群馬県立吾妻特別支援学校　専門アドバイザー　　中曽根　良雄
・　講義　「わかる授業をするための近道」(H29)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　宮村　奈々江
・　講義　「発達障害の理解と支援」(H29、H30、R1)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　長谷川　剛広 群馬県立沼田特別支援学校　専門アドバイザー　　長谷川　健之
・　講義　「わかりやすい授業の基本として押さえておきたい項目」(H30)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　菅野　剛 群馬県立高崎特別支援学校　専門アドバイザー　　大塚　紀仕子
・　講義　「わかりやすい授業の基本として押さえておきたい項目」(R1)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　菅野　剛
・　講義　「発達障害の正しい理解について」(R1)

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　長谷川　剛広
・　講義　「みんなが活躍できる授業を実施するために押さえておきたいこと」(R1)

（3） 県立特別支援学校専門アドバイザー

群馬県立高崎特別支援学校　専門アドバイザー　　狩野　進
・ 講義 「通常学校における特別な支援の必要な児童への具体的な支援」(H26)

群馬県立しろがね特別支援学校　専門アドバイザー　　尾岸　純子
※ 以下、講義の演題及び実施年度 ・「特別な配慮が必要な子へのかかわり方」(H26) ・「通常の学級における発達障害児の支援について」(R2)

群馬県立館林高等特別支援学校　専門アドバイザー　　中里　真利子
・ 講義 「『発達障害特性理解』～学習障害(等に読み書き障害)に焦点を当てて～」(H27)

群馬県立渡良瀬特別支援学校　専門アドバイザー　　植木　あゆみ
※ 以下、講義の演題及び実施年度 ・「『気になる子』への配慮 ～授業でのポイント～」(H28) ・「発達障害について ～気になる子への理解と支援～」(R2)

群馬県立館林特別支援学校　専門アドバイザー　　須永　里紗
・ 講義 「『気になる子』への配慮 ～授業でのポイント～」(H28)

群馬県立富岡特別支援学校　専門アドバイザー　　神田　珠美
・ 講義 「通常の学級における特別支援教育 ～特別ではない特別支援教育を目指して～」(H30)

群馬県立藤岡特別支援学校　専門アドバイザー　　齋藤　裕章
・ 講義 「発達障害の理解と支援 ～連続性を感じながら～」(R2)

群馬県立沼田特別支援学校　専門アドバイザー　　長谷川　健之
・ 講義 「特別支援教育について」(R2)

2　専門性向上研修

大阪大学大学院　連合小児発達学研究科　特任講師　　和久田　学　様 NPO法人リンケージ　理事長　臨床心理士　　石川　京子　様	
・　班別協議　「発達障害等、気になる生徒に係る情報の共有」（H26）	

群馬医療福祉大学　リハビリテーション学部　　教授　北爪　浩美　様 群馬大学医学部附属病院　精神科神経科　　医師　藤平　和吉　様	
・　ケース会議における指導助言等（H26）	

群馬大学医学部附属病院　小児科　医　　師　　岡田　恭典　様 群馬大学教育学部　　臨床心理士　　安田　淑美　様 NPO法人リンケージ　理事長　　臨床心理士　　石川　京子　様	
・　ケース会議における指導助言等（H27）	

あがつま相談支援センター　　臨床心理士　　八重樫　陽子　様 群馬リハビリテーション病院　　作業療法士　　市川　亮太　　様	
・　ケース会議における指導助言等（H28、H29）	

群馬大学教育学部　教授　　霜田　浩信　様 NPO法人リンケージ　理事長　　臨床心理士　　石川　京子　様 スクールカウンセラー（太田市担当）　　伊藤　洋子　様 群馬医療福祉大学　リハビリテーション学部　教授　　北爪　浩美　様	
・　ケース会議における指導助言等（H27）	

国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　臨床心理士　小池　千鶴子　様
・　ケース会議における指導助言等（H28、H29）

スクールカウンセラー（太田市担当）　　伊藤　洋子　様 NPO法人リンケージ　理事長　　臨床心理士　　石川　京子　様 群馬県立沼田特別支援学校　専門アドバイザー　　長谷川　健之	
・　ケース会議における指導助言等（H28）	

anomira代表　作業療法士 群馬県立富岡特別支援学校　専門アドバイザー 群馬県立吾妻特別支援学校　専門アドバイザー 群馬県立館林特別支援学校　専門アドバイザー 群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事	北爪　浩美　様 神田　珠美 中曽根　良雄 須永　里紗 藤生　雅代
・　ケース会議における指導助言等（H29）	

anomira代表　作業療法士 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　臨床心理士	北爪　浩美　様 小池　千鶴子　様
・　ケース会議における指導助言等（H30）	

群馬県教育委員会特別支援教育室　指導主事　　髙橋　玲
・　演習　「ケース会議（60分）の進め方」（H26）

群馬県立渋川特別支援学校　専門アドバイザー　　齋藤　裕章
・　演習　「発達障害等、気になる児童に係る学びの場について」（H28）

群馬県立渡良瀬特別支援学校　専門アドバイザー　　植木　あゆみ
・　講義　「ケース会議の進め方」（H27）

3　児童生徒を対象とした障害理解教育

国立重度知的障害者総合施設のぞみの園診療部長　医師　　有賀　道生　様
・　講演　「自信をもって生きよう　－自己肯定感を高めるために－」（H26）

群馬県教育委員会特別支援教育室　指導主事　　井草　昌之 群馬県立高崎特別支援学校　専門アドバイザー　　狩野　　進
・　授業　「自分で考えて行動しよう」（学級活動（2）ウ）（H26）

群馬県教育委員会特別支援教育室　指導主事　　近藤　千香子 群馬県立渋川特別支援学校　専門アドバイザー　　齋藤　裕章
・　授業　「得意なこと、苦手なことについて考えよう」（道徳２－（２））（H26）

NPO法人リンケージ　理事長　臨床心理士　　石川　京子　様 東毛若者サポートステーション　　真木　　寛　様
・　授業　（H27）

群馬県立吾妻特別支援学校　専門アドバイザー　　中曽根　良雄
・　授業　「いいところを見つけよう」（3年学活）（H27） ・　授業　「うれしくなる言葉を見つけよう」（4年学活）（H27） ・　授業　「チームビルディング」（5年学活）（H27）

群馬県教育委員会特別支援教育室（課）　指導主事　　井草　昌之
・　授業　「自分で考えて行動しよう」（6年学級活動（2）ウ）（H27） ・　授業　「障害を感覚的に理解する」（中1道徳）（H28）

NPO法人リンケージ　理事長　臨床心理士　　石川　京子　様
・　授業　「チームビルディング」（H29～R2）

４　PTA役員、保護者等を対象とした研修会・講演会

（1）　外部講師

大阪大学大学院連合小児発達学研究科　特任講師　　和久田　学　様
・　講義　「子育てを科学する」（H26） ・　講義　「子どもの行動を科学的にとらえて支援する」（H27）

群馬大学非常勤講師　臨床心理士　　安田　淑美　様
・　講義　「さまざまな子どもの発達を考える」（H27）

anomira代表　作業療法士　　北爪　浩美　様
・　講話　「子どもを育てる魔法の言葉」(H27) ・　講話　「子どもの成長を促す接し方～脳の発達に視点を当てて～」(R1)

障害者相談支援センター希望の家　相談支援専門員　　星野　敏江　様
・　講話　「子どもを育てる魔法の言葉」(H28)

群馬県発達障害者支援センター　　金子　章子
・　講話 「ほめる・認める子育てのポイント～否定的な関わりから肯定的な関わりへ～」(H28)

日本体育大学　児童スポーツ教育学部　准教授　　宇部　弘子　様
・　講話　「子どもを伸ばすための正しい理解と適切な支援のあり方」(H29)

国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　臨床心理士　小池　千鶴子　様
・　講話　「ほめて育てる子育てのコツ」(H30)

NPO法人リンケージ　理事長　臨床心理士　　石川　京子　様
・　講話　「今日からできる子どもの自信を育むかかわり」(H30) ・　講話　「子育ておけるヒント～上手なほめ方と伝え方～」(R1) ・　講話　「みんな違ってみんないい～心と脳の発達～」(R1)

玉村町立芝根小学校　スクールカウンセラー　　大場　陽子　様
・　講話　「子どもたちの最適学習環境　～特別を特別ではなくす日常のために～」(R1)

（2） 特別支援教育課指導主事

群馬県教育委員会特別支援教育課　指導主事　　狩野　等
・ 講話 「子どもの発達とかかわり方について～上手なほめ方と叱り方～」(H29)

（3） 県立特別支援学校専門アドバイザー

群馬県立しろがね特別支援学校　専門アドバイザー　　尾岸　純子
・ 講話 「子どもの成長を支える支援を考える」(H26) ・ 講話 「自分に自信を持てる子を育てるための秘訣」(R2)

群馬県立吾妻特別支援学校　専門アドバイザー　　中曽根　良雄
・ 講話 「家庭での場面あるある」(H27、H28)

群馬県立富岡特別支援学校　専門アドバイザー　　神田　珠美
・ 講話 「子育て講話」(H29)

群馬県立館林特別支援学校　専門アドバイザー　　須永　里紗
・ 講話 「ほめて育てる、子育てのコツ」(H29)

群馬県立渡良瀬特別支援学校　専門アドバイザー　　植木　あゆみ
・ 講話 「子育て講話」(H30)

群馬県立吾妻特別支援学校　専門アドバイザー　　田中　由香里
・ 講話 「子育て講話」(R1)

群馬県立沼田特別支援学校　専門アドバイザー　　長谷川　健之
・ 講話 「子育て講演会」(R1) ・ 講話 「子育てについて」(R2)

【資料3】実施要項及び授業の企画(Step1～5)

6年生各学級で学級活動の授業を実施

○○小学校　障害理解教育　実施要項

１　目　的

○　学級活動を通じて児童への発達障害理解を図ること。

○　障害のある児童と障害のない児童が共に学び合える学校づくりについて、共通理解を図ること。

２　主　催　　○○小学校
　　群馬県教育委員会

３　期　日　　平成２７年３月５日（木）

４　会　場　　○○小学校　６学年教室

５　内容等

○　学級活動の授業を通して障害理解教育を実施する

○　県教育委員会指導主事と県立特別支援学校専門アドバイザーが連携して、学級活動の授業を実施する

○　題材　「自分で考えて行動しよう」
　　（学級活動（２）ウ　望ましい人間関係の形成）

６　日　程

８：５５～　９：４０　　６年１組教室

９：４５～１０：３０　　６年２組教室

１０：４５～１１：３０　　６年３組教室

１１：３５～１２：２０　　６年４組教室

授業者　　群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事　井草　昌之
　　群馬県立みやま養護学校専門アドバイザー　狩野　　進

＜Step1＞ 基本構想

・ 高学年において、クラスごと計4回の45分授業を行う。
・ 講師は、専門アドバイザー又は特別支援教育室指導主事
・ 障害のある人について、児童は居住地校交流や総合的な学習の時間、人権教育などを通して学習してきているが、身体に障害のある人や目や耳に障害のある人等の、見た目や体験でわかりやすいことのみであるため、目に見えない障害である例えば発達障害にかかわっていくような授業になるようにしたい。
・ 障害のある人に対する価値観を学ぶという点では、道徳の時間での学習が考えられる。
・ 他者とのかかわり方が変わるきっかけになるような授業にしていきたい。

＜Step2＞ モデルプラン①(草案)

（1） 目標について

他者の気持ちや考えを想像し、それを大切にしていこうとする広い心を育てる。

（2） 内容について

・ 道徳の内容項目2－(4)「相手の気持ちや考えを知り、それを大切にしていこうとする広い心を育てる」ことをねらいとする。
・ 集団の中で生活をしていくには、相手の考えや立場を理解する広い心をもつことが必要である。冷静に相手の立場や事情を考え、相手を思いやる気持ちをもち、謙虚な態度で接していくことが人と人との関わりには大切であることをつかませたい。
・ 低学年の「身近にいる幼い人や高齢者に」が、高学年では「だれに対しても」「相手の立場に立って」と深化・発展し、より広い視野で生活することが求められている。「だれに対しても」という不特定多数を対象としつつ、「相手の立場に立って」という客観性を意識させたい。
・ 授業では錯視画像とLDに関する文献を用いる。錯視画像を用いることで、「自分の認識には違っていることがあること」や「自分と他者の意見には当然違いがあること」を児童に気づいてもらいたい。LDに関する文献は絵本を用い、読み書き等の中の特定の部分に、苦手さがある人がいることを知ることで、「誰にでも得意、不得意のでこぼこがあること」に気づいてもらいたい。また、LDでも著名で活躍している人がいること、その人たちは得意なことを伸ばすことで不得意な部分を補っていることを理解し、「人と人、自分と人は違うことがあってよい」ことに気づかせたい。

＜Step3＞ モデルプラン(草案)を受けての学校の要望

・　1時間のみの授業で障害名やその特徴を直接的に資料や教師の口から出してしまうと、発達段階的に障害者蔑視につながることも考えられる。

・　道徳はあえて価値観を植え付けないで終えることもある。授業のおおまかな流れはよいが、相手の立場に立って行動を変えていくという流れは、学級活動の方が適している。

・　心が育っていること、学級活動がより充実していることを勘案すると、6年生のクラスごとの実施がよい。

＜Step4＞ モデルプラン②(成案)

(1)　ねらいについて

相手らしさに気づき許容したり、他者を大切にする関わり方を学んだりする活動をとおして、自分の行動を変化させ、日常に生かそうとしている。

(2)　内容について

・　特別活動〔学級活動〕2内容(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ望ましい人間関係の形成」に基づいて設定する。

・　「はばたく群馬の指導プラン」で示された、「豊かな心」を育てる3つの心のうち、「向上する心」;「自分のよさに気付き、伸ばそうとすることができる」資質・能力や、「大切にする心」;「学校の生活をよりよくするために、諸活動に取り組むことができる」資質・能力を育んでいく。

・　人間関係づくりが苦手な子どもたちは、学級において親しい友だちとだけの狭い関係にとどまってしまう傾向がある。また、自他の違いを受け入れることに不慣れで、相手を否定・攻撃したりし、トラブルが起こってもうまく解決できない場合も見られるため、自分の持つ価値観や感じ方、考え方の傾向である「自分のものさし」に目を向け、自分と他者は感じ方や考え方、得手不得手の違い(でこぼこ)があって当たり前である、ということに気づかせたい。

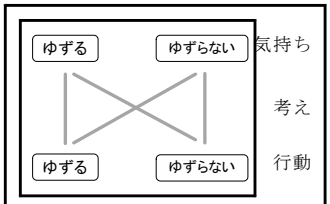
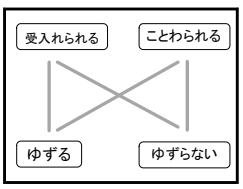
・　違いがある他者に対してどのように接すればよいかという人間関係づくりのスキルについて考え、具体的な行動として自分なりの答えを出すことにより、気持ちよく生活できることの価値を指向できるようにしたい。

・　指導するにあたり、錯視画像とグループでの話合い活動を用いる。錯視画像を用いることで、「自分の認識には違っていることがあること」や「自分と他者の意見には当然違いがあること」を楽しみながら児童に気づかせたい。話し合い活動では、人と人がものさしの違いからトラブルになること理解することで、「人と人、自分と人は違うことがあってよい」ことに気づき、自分の明日からの行動に生かしていく。

＜Step5＞授業案

障害理解教育に係る授業案（第６学年）

1　題材　「自分で考えて行動しよう」　学級活動（２）　ウ　望ましい人間関係の形成
2　本時
(1)　ねらい　・　行動しようとするときに考えることは、みんな同じでないことを体験する。
　　・　相手の気持ちを察して行動しようとすることを決める。
(2)　準　備　ホワイトボード９枚、マーカー、メモ用紙①②
(3)　展　開

	児童の活動	指導上の留意点
導入10分	めあて「友だちの考えをたくさん聞こう。」 1　教師の役割演技①を見て、自分だったら席をゆずるかどうかについて考える。	・考えて行動する仕組について､イメージ図を提示する。 **【本時のキーワード】** 「考える」「みんなまったく同じではない、ちょっと違いがある」「相手の気持ちを考える」
展開30分	2　気持ちから行動に移すときに、どんなことを考えるかについて、話し合う。 ・４人グループにわかれて考え方を出し合う。 ・何を考えたかを、ホワイトボードにまとめる。 3　全体で各グループのまとめを発表し合う。	・気持ちから行動に移すまで考えるということについてイメージ図の線分で示し、考えたことを線分にそって書き表すように助言する。 ・同じ気持ちや行動でも、自分と他者の考えには違いがあることに気づけるよう、「〇〇君の考え方を説明してください。」や「気持ちと行動が違う人はいろいろ考えているんだね。」などと言葉をかける。  イメージ図①
	4　「断られる」役割演技②を見て、断られた経験の後、違う人の時に自分がどんな行動をするか決め、考え方を話し合う。	 イメージ図② ・児童の「どんな人かわからないから…」や「次は違う人かもしれない」といったことばから、相手の気持ちを察する大切さに気づけるようにする。
終末５分	6　相手の気持ちを察することの大切さを考えながら自分の行動を考える。 まとめ「行動する前、した後に相手の気持ちを考えてみよう。」	・児童の決めた行動を挙手や発言で確認しながら、改めて本時のキーワードを伝えながら、まとめとする。

【資料4】実施要項及び授業案

4年生(単学級)で道徳の授業を実施

○○小学校　障害理解教育　実施要項

１　目　的

○　道徳を通じて児童への発達障害理解を図ること。

○　相手のことを思いやり、進んで親切にする心情の大切さを理解すること。

２　主　催　　○○小学校

群馬県教育委員会特別支援教育室

３　期　日　　平成２７年　月　日（　　）

４　会　場　　○○小学校　４学年教室

５　内容等

○　道徳の授業を通して障害理解教育を実施する

○　県教育委員会指導主事が道徳の授業を実施する

○　題材　「得意なこと、苦手なことについて考えよう」

（道徳２－（２）　思いやり・親切）

６　日　程

８：５５～　９：４０　　４年教室

授業者

群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事　近藤　千香子

群馬県立榛名養護学校専門アドバイザー　　齋藤　裕章

障害理解教育に係る授業案（第４学年）

１　題材　「得意なこと、苦手なことについて考えよう」
　　道徳　２－（２）思いやり・親切

２　本時

(1)　ねらい　・　苦手なことが障害となり困難な状況にある人がいることに気づく
　　・　相手のことを思いやり、進んで親切にする

(2)　準　備　　パソコン(パワーポイント)、大型テレビ(プロジェクター)

(3)　展　開

	児童の活動	指導上の留意点
導入15分	１　苦手なことによって生活しにくくなる場合について知る。	○　パワーポイントを用いて、ウサギとカメのイラストを活用し、それぞれの得意なことや苦手なことをイメージしやすくする。
	２　ウサギとカメを使って、どうすれば生活しやすくなるか話し合う。 ・ウサギ 橋を作る 船を作る カメの背に乗って渡る等 ・カメ 道路を平らにする ウサギの背に乗って進む等	○　イラストを多用して、具体的な手立てに気付くことができるようにする。 ・ウサギが橋のない川を前にして困っている場面を提示する。 ・カメがデコボコ道を前に進めなくなってしまう場面を提示する。 ○　１人が２つ以上の意見を言うことができるよう、４人グループに分かれて話し合うこととする。
展開25分	３　体験を通して、感じたことを発表する。 ・音がうるさくて嫌だな。 ・ちょっと触っただけでも怖がらせてしまう ・普通の字なのに違う形に見えるなんて驚いた ・ひらがなばかりだと文の意味がよく分からない ・部屋の中でもサングラスをかけなくてはならないなんて大変　　等	○　子どもが具体的、実際的な体験ができるようにする。 ・聴覚過敏の人が日常生活の中で感じる周囲の音量や音質の音源を流す。 ・人との関わりが難しい人の例をイラストで提示する。 ・識字障害の人の文字の見え方の例のプリントを拡大して黒板に提示する。 ・ひらがな文字のみで書かれた文章を拡大して黒板に提示する。 ・視覚障害で光が苦手が人の例をイラストで提示する　　等
終末５分	４　自分の得意なことや苦手なことを発表し合う。 ・みんなは○○が得意だけど私は苦手 ・私は△△が得意だけど、それが苦手な友だちもいる。	○　子どもの発表を受けとめ、「自分は得意でもそれを苦手と感じる人がいる」という言葉でまとめあげていく。

【資料5】実施要項及び授業の企画(Step1～4)

5･6年生で学級活動の授業を実施

○○小学校　障害理解教育　実施要項

1　目　的

○　他者の個性を尊重し、自分の個性を発揮しながら課題解決を図る集団活動を通して、障害のある児童と障害のない児童が共に学び合える学校づくりについて、共通理解を図ること。

○　進級、進学等により、新しい環境や出会いを迎えるに当たって、人間関係を気づくために必要なことを体験活動を通して学ぶ。

2　主　催　　○○小学校
　　群馬県教育委員会特別支援教育室

3　期　日　　平成２７年２月３日（火）

4　会　場　　○○小学校　多目的室

5　内容等

○　学級活動におけるエクササイズ等を通して障害理解教育を実施する

○　外部講師により学級活動の授業を実施する

○　題材　「人間関係形成・チームビルディング」

6　日　程

９：４０～１０：２５　　６年生対象（教室）

１０：５０～１１：３５　　５年生対象（教室）

授業者　特定非営利活動法人リンケージ　理事長　石川　京子
　　東毛若者サポートステーション　　真木　　寛

＜Step1＞ 基本構想

- 11月11日（火）に実施したすべての教員対象研修を受けて、具体的な授業モデルを得る機会としたい。
- 「多文化共生」、「他者受容」は、地域、学校の抱える共通のテーマ。
- 発達障害のある児童は、新規環境に適応することが苦手であるという特性に焦点を当てた予防的な学習の機会を考えたい。
- 小学校から中学校への進学を機に、新たな人間関係につまずく児童は、見過ごせない数であるという現状に対しての、学習の機会ともしたい。
- 対象は、高学年児童として授業を行う。

＜Step2＞ モデルプラン（草案）

（1） 目標について

例1）疑似新規集団での活動から、対応の具体的な方法を経験的に得る。

例2）協力する活動を通じて、かかわり方を知る。

例3）うまくいかない場合の対応の仕方を知る。

例4）活動におけるミッション達成経験から自己肯定感を高める

（2） 内容について

例5）他者と関わるためには技術が必要である。

例6）気になる子が問題にならないためには、周囲の環境を育てる必要がある。

例7）自己肯定感を高める指導実践のアイデアを得て、指導に生かす。

【6年生】

小学校までの固定集団が大きく変わることを見据え、新しい人間関係を築くための知識と経験を得る。

【5年生】

集団での活動の中で、他者の個性を尊重するとともに、自分の個性を発揮する機会を通して、人間関係を築く力を高める。

＜Step3＞ エクササイズの概要（成案）

【ねらい】

6年　○　社会に出ることや働くことの意味について考える場を設定することで、将来に向けて展望する機会とする。中学校という新しい社会で人間関係を築く力をつける。

5年　○　他者の個性を尊重し、自分の個性を発揮しながら、課題解決を図るアクティビティの体験を通して人間関係を築く力をつける。

【内容】

（1）　挨拶・自己紹介

（2）　授業のねらいと学習方法の説明

（3）　ウォームアップ（アイスブレーク：簡単な模倣活動で相互の心の距離を縮める）

○「ねらって拍手／リズム拍手」（＝失敗を許し合える・注目させる環境づくり）

- 講師が手を叩く動きを見て、個々の児童が同じように手を叩く。
- 手を叩く、肩を叩く等、難易度の高いアレンジに取り組む。

○「チームを組もう」（＝情報の受発信）

- 講師が合図をしたときに手を叩いた数でチームを作る。
- 必ず男女混合で、他クラスの児童が1名以上いることを条件にチームを作る。
- 条件に合わず、チームが作れない児童が出たら、全員でどうすれば良いか考えて解決する。2回から3回行う。

○「バースデーライン」（＝「自己主張する」情報の受発信）

- 4月生まれから3月生まれまでの順番で一列の輪を作る。
- 児童は互いに音声での会話はしないルール。ジェスチャーで伝えることは可。
- 輪ができたら、声を出して、正しい順序で輪が作れたかを確かめる。

（4）協働体験プログラム：話し合う、合意形成、支え合い

○「パチパチインパルス」（＝チームの一員としての役割を意識、目標の大切さ）

- 15人程度のチームを作り、チームごとに輪になる。
- スタートの児童が拍手を1回したら、時計回りに、隣の児童が続いて拍手1回をするという動きをなるべく早く行う。最後の児童が拍手をしたら終わり。
- ストップウオッチで計測し、より早くできたことを確かめられるようにする。

○「ヘリウムフープ」

- 6人程度のチームが協力して一つのフラフープを操作する。
- 全員が立った姿勢で指を一本差し出し、フラフープを全員の指の上に乗せる。
- 指で支えたフラフープを落とさないように指の位置を調整しながら、姿勢を低くしていき、フラフープを床に置く。

※　児童の状況に応じ各アクティビティー及びプログラム内容の変更を考える。

＜Step4＞授業案

障害理解教育に係る授業案（第５学年・６学年）

1　題材　「チームビルディング」
　学級活動（ ウ　望ましい人間関係の形成 ）
2　本時
(1)　ねらい　・　中学校という新しい社会で人間関係を築く力を付ける。
　・　社会に出ることや働くことの意味について考える場を設定することで、将来に向けて展望する機会とする。
(2)　準　備　ストップウォッチ、フラフープ
(3)　展　開

	児童の活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	**1　本時の活動を知る** ・　講師の話を聞き、本時のめあてを知る。 **2　ウォームアップ** 「ねらって拍手／リズム拍手」 ・　講師の動きを模倣する。 ・　手を叩く ・　肩を叩く動きを加える	・　中学校進学に伴う新しい出会いの中で、よい人間関係を作る上で大切なことがあることについて投げかける。 ・　動きのある活動で緊張をほぐす。	・　講師の合図に合わせて動作をしている。 ・　チームを組めない仲間にアドバイスを送っている。
展開 25分	**1　アクティビティ①** 「チームを組もう」 ・　講師が手を叩いた数と同じ人数のチームを作る。 「バースデーライン」 ・　誕生日順に並んで輪を作る。	・　児童同士で言葉をかけ合う姿を積極的に賞賛し、活発に意見を伝えようとする気持ちを引き出す。	・　作戦タイムで改善策を出し合っている。 ・　身長の違いに応じて動きを調整している。 ・　みんなで協力したことを発表している。
	2　アクティビティ② 「パチパチインパルス」 ・　１５人程度のチームを作り輪になる。 ・　スタートの児童が拍手１回をしたら、時計回りに、隣の児童が拍手１回をするという動きをなるべく早く行う。	・　他のチームと競う状況を作り、児童が工夫を出し合う時間を確保する。	
	3　アクティビティ③ 「ヘリウムフープ」 ・　６人程度のチームが協力して一つのフラフープを落とさないように立ったり座ったりする。	・　うまくいったチームを手本にすることを助言し、自分たちでできそうなことを取り入れて活動する姿を賞賛する。	
終末 10分	**○　感想を発表する。** ・　楽しかったこと、難しかったこと ・　工夫したこと、考えたこと ・　わかったこと　　等	・　児童の感想を受けとめ、認める。 ・　工夫して上手くできたという趣旨の発表を取り上げて、「上手くできたのはみんなで工夫を考えたからだ」と投げかけ、みんなで協力することの素晴らしさについて考えるきっかけをつくる。	

【資料6】授業の企画及び授業案等（Step1～4）

3・4年生（単学級）で学級活動の授業を実施

＜Step1＞ 基本構想

・ 児童は、4年生の総合的な学習の時間（福祉）や人権教育等で、障害のある人について学習してきているが、視覚障害や聴覚障害、車いす等を利用する身体障害のある人等、目に見えて分かりやすいものが中心である。発達障害のような見えにくい障害について理解を促すことができる授業になるとよい。

・ 各学年の発達段階や学級の実態に応じて、障害のある人に対する理解を促すことを考慮すると、道徳や特別活動の時間での学習が考えられる。

・ 児童にとって、お互いの違いを認め合い、個性を尊重できるかかわり方を学ぶ機会としたい。

・ 対象は、3学年及び4学年児童。

・ 専門アドバイザーが教職員を児童に見立てた模擬授業を提供し、授業の事前検討会を行う。

＜Step2＞ モデルプラン（草案）

○ 道徳 中学年2－（2） 思いやり・親切 主題：「相手の気持ちを理解しよう」で実施する。

・ 学習障害の児童を主人公とした絵本教材（自作教材）を使用する。本読みや算数、運動等苦手なことが多い主人公の行動を見つめる周囲のクラスメートの視点で、相手（主人公）の気持ちを考える活動を展開する。

・ 4学年は、障害のある人について学習している経験を生かして、様々な困難さのある人がいるということ、その人なりの努力や個性を認め合うことに気付けるようにしたい。

＜Step3＞授業案

障害理解教育に係る授業案（第３学年・第４学年）

１　主題　「相手の気持ちを理解しよう」

道徳　　中学年２－（２）　思いやり・親切

２　本時

(1)　ねらい　・　思いやりを持って友達に接する態度を育てる。
　　・　できるできないよりも、努力しているかどうかを大切に思う気持ちを育てる。

(2)　準　備　自作教材（絵本）、パソコン、テレビ、ＬＤの人の見え方（自作）、感想記入シート

(3)　展　開

	学習活動（○発問　・予想される子どもの反応）	指導上の留意点
導入 ５分	１　すごいなと思う友達って、どんな友達かを話し合う。 ・足が速い。 ・勉強ができる。	・すごいなぁと思う友達を思い浮かべさせることで、具体的にどこがすごいと思うかをイメージできるようにする。
展開 30 分	２　読み聞かせ（第１部）を聞き、話し合う。 ○どうしてクラスの友達は主人公を笑ったのですか。 ・文字が読めない。　・文字が書けない。 ・かけっこが遅い。　・リコーダーが下手。 ・自分よりできない。 ３　主人公のがんばりを棒グラフにみんなで表してみましょう。１～１０で表すと、いくつになりますか。 ・半分より下 ４　読み聞かせ（第２部）を聞き、話し合う。 ○主人公は文字がどう見えますか。 ・曲がっている。　・ゆがんでいる。 ○どうして、クラスの友達は主人公を笑うのをやめたのですか。 ＜予想される反応Ａ＞ ・少し上手に読めるようになった。 ・リコーダーが少し引ける。 ・かけっこが１秒速くなった。 ＜予想される反応Ｂ＞ ・家で本読みやリコーダーを練習していることを知ったから。 ・毎日、公園で走る練習をしているから。 ５　主人公のがんばりを棒グラフにみんなで表してみましょう。１～１０　で表すと、いくつになりますか。 ・半分より上　・１０	・教材を区切って読みきかせることで、クラスの友達の気持ちの変化を読み見とれるようにする。 ・児童から出てきた意見をそのまま板書し、自分と同じ意見であることを確認する。 ・主人公を笑うということは、自分と比べてできないことを押さえる。 ・がんばり度の棒グラフを使用し、主人公の頑張り度を数値で表示し、今の段階ではがんばり度が低いとみんながとらえていることを確認する。 ・主人公が文字を見るときに、ゆがんだり、二重に見えたり、にじんだりすることが理解できるように、いろいろな文字の見え方の例を示す。 ・主人公がいろいろなところで努力をしていたことをみんなで確認する。 ・主人公の努力を知ったクラスの友だちの気持ちに共感させる。 ・Ａの反応を受けて、主人公はできるようになったことが増えたことを押さえる。 ・Ｂの反応を受けて、がんばり度を棒グラフに数値化して考えさせ、がんばり度の変化を捉える。 ・最初の棒グラフとの違いに注目させる　ようにし、笑わなくなった理由が、友　達が考える主人公のがんばり度が上が　ったことを皆で確認する。
終末 10 分	６　今日の授業を受けて、どんなことを思ったか。または、これまでの自分を振り返って今後どのようにしたいかをワークシートに記入する。 ・困っている友達がいたら、理由を聞いて、一緒に考えてあげる。 ・友達が何かできないでいたら、一緒にしてあげたり、そばで見守ったりする。	・机間巡視を行い、良かった意見について、発表させる。 ・書けない児童には机間巡視をして、一緒に考える。 ・授業を受けての感じたことや、今後、自分はどんな行動をとりたいのかを考えさせるが、無理に相手を思う行動を強いるようなことはしない。

＜Step4＞自作教材

自作教材（本文）

＜第1部＞

1ページ目

私は小学生。名前は「しずか」っていうんだ。
絵を描くのが大好き。保育園の時には、絵を描いていると、
みんなが「上手」ってほめてくれたんだ。
でも、小学生になるとお勉強の時間がたくさんあって困ってる。

「これ、なんて読むの？」困った。文字が読めない。
どうしてみんなはすらすら読めるのだろう。
おうちで、たくさん読む練習しているのかな。

国語の丸読み。
「どうしよう。私のところまでまわってくる。」
「わ・し・ん」
「わ・も・ん」
「れ・も・ん、だろう」誰かが笑った。

算数の時間はもっときらい。
数字はもっとわからない。
「これ、いくつって書いてあるの？」

私はやっぱり　ばかなのかな。

＜イラスト＞
授業中、主人公が
教科書を見て
困っている場面

2ページ目

明日は待ちに待った運動会。
お母さんがお弁当をもって見に来てくれる。楽しみ！

自分の応援する赤城団の旗作りにも力が入る。

「ねえ、しずかちゃん。あかぎだん、ファイトって書いてよ」
「えー」頭が真っ白になった。

文字が読めないのに、旗なんか、書けっこないじゃない。

「うーん。やっぱり私は旗の絵を担当するよ」

「やっぱりね」という声が遠くから聞こえる。

＜イラスト＞
運動会の旗作りの場面
（絵を描いている場面）

3ページ目

運動会当日。
自分の描いた絵がほめられていい気になっているのもつかの間、
最悪の時間が訪れてしまった。
クラス全員リレー。
私の名前は「渡辺しずか」だから、番号順で走順は一番最後。
赤城団の友達が１位でバトンをつなげてくれたのに、私が走るとカメのような遅さ。
２人に抜かされ、３位になっちゃった。

次は応援合戦。
赤城団はリコーダーで応援歌を弾く。
指がもつれちゃう。
「しずか。ちゃんとやれ」みなが笑った。

成績発表！赤城団、最下位。

ここで、クラスメートの金井君が一言。
「あ～あ。しずかのせいで、優勝できなかった。
なんでそんなに足が遅いんだよ。
リコーダーは一人だけ変な音が出てるし。
昨日の横断幕作りでも文字を書いてくれなかった。
そういえば、普段の授業中も何もできないよな」

その日から、みんなが「ばか」「まぬけ」というようになった。

席替えをすると私が隣になるのをみんなが嫌がる。
廊下ですれ違うと、誰かが「ばか」ってぼそっと言う。
授業中、間違うと、どっとクラスが笑う。

もう、学校なんかいやだ。学校になんか、行きたくない。

＜イラスト＞
運動会の全員
リレーの場面

＜イラスト＞
主人公がみんなに
笑われている場面

＜第2部＞

4ページ目

４年生になった。担任は斉藤先生。
おしゃれで、スタイルのよい先生。やさしそう。
女の子が先生を取り囲んだ。でも、先生は頭が良い子をひいきしなかった。
「私も先生のところに行きたいけれど、頭が悪いからいいや」

教室で好きな絵を描いていた。
「しずかさん、絵が上手ですね」
先生はいつも褒めてくれた。
先生に褒められると、みんなも私の絵を見に来る。
「しずかちゃんの絵ってかわいい」

でも、国語の時間になると、また、みんなが笑う。
「あ・い・う・え・えきから　でん・でんしゃに　の・のる」

「しずかさんを笑うほど、君たちはりっぱなのかい？」
先生が言った。

＜イラスト＞
斉藤先生がしずかさんの絵をほめている場面

5ページ目

「みんなはしずかさんを笑うけれど、
しずかさんはこんなふうに文字が見えるんだ」
って、先生が説明してくれた。

「えー。こう見えるの？」とみんなが驚いていた。
「字が曲がっている。重なっている。薄い。…」

＜教材＞
「ＬＤの子の見え方」
を提示する。

「しずかさんのお母さんから聞いたんだ。
しずかさんは毎日家に帰ると、近くの公園に行って、
毎日お母さんとかけっこの練習を２０分しているそうだ。
雨の日も風の日も、練習しているんだ。４月のタイムと
比べると５０メートルが１秒も早くなったんだぞ。
そして、国語の教科書を毎日１時間かけて読んでいるんだ
。読みづらい字には丸を付けて、漢字に読み仮名を振り、
１つ１つ声に出して読んでいるんだ。しずかさんが、
つっかえる回数が減ったのを気づいた人はいないのかい？
リコーダーの練習も毎日行って、運動会の曲は弾けるように
なったと、しずかさんは喜んでいたぞ。

きみたちは、それでもしずかさんを笑うのかい？」

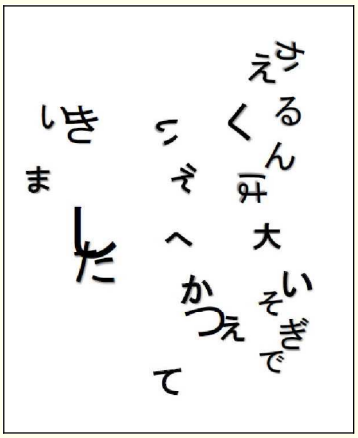
それから、私を笑う人はだれもいなくなった。バカにする人もいなくなった。

＜イラスト＞
しずかさんがお母さんとかけっこの練習をしている場面

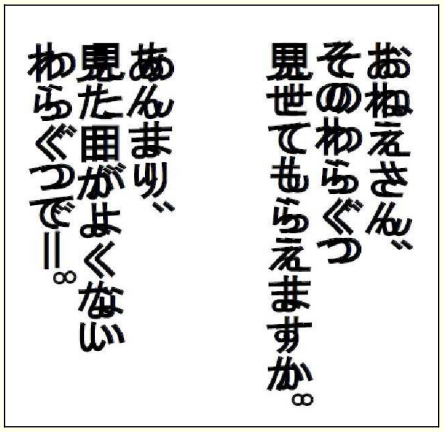
＜参考＞①

自作教材（見え方の例）

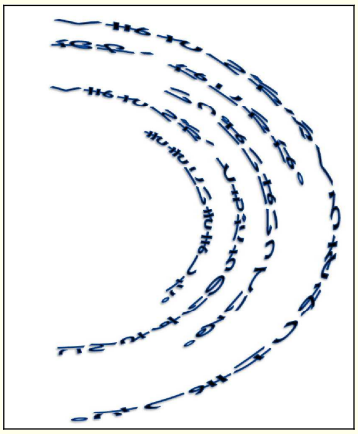
1



2

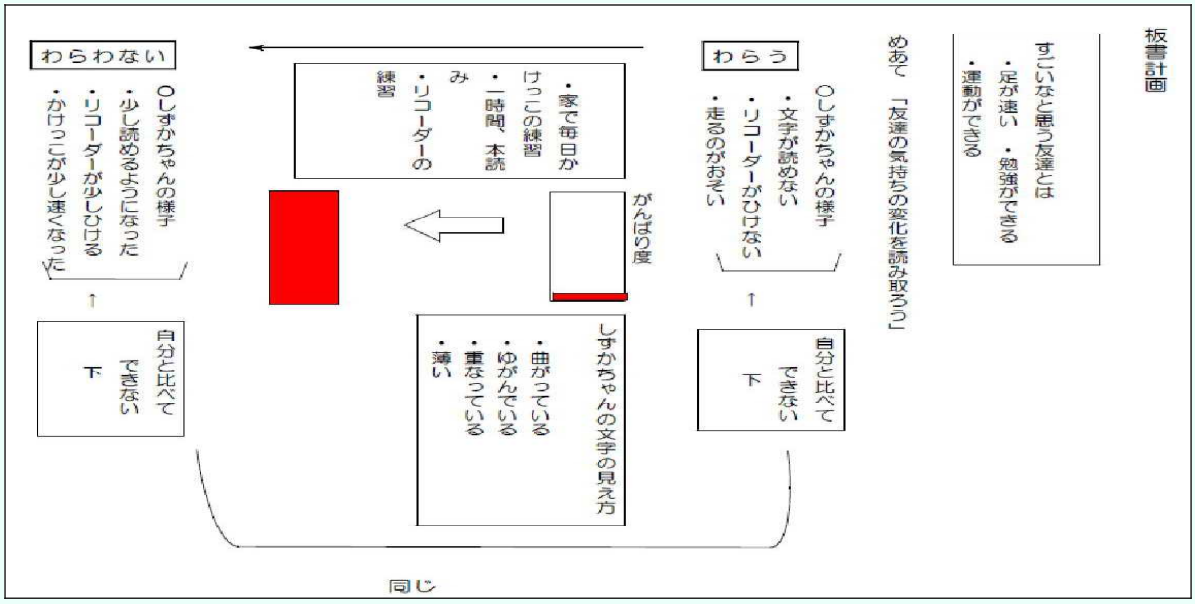


3



4

＜板書計画＞



＜参考＞②

＜子どもの感想＞

ぼくは、いじめをしないで思いやりのある人間になりたいと思いました。しずかさんのつらさのように、ぼくも色々な練習をして、つらさをけいけんしていきたいと思いました。

これからは、人の事をバカにしたりしないように気をつけようと思いました。これからは、できないことも努力してできるようにしようと思いました。しずかさんは、しずかさんなりに努力をしているんだなあと思いました。

この話を聞いて、しずかさんみたいながんばっている人はいるんだなと思いました。これから、努力している人もいるので、その子のとくいなことをほめてあげたいです。

しずかさんは、学校に行きたくないとも言っていたのに、いろんなことをがんばっていて、とてもすごいなと思いました。そして、やっぱりがんばればすくわれるんだなと思いました。これからいろいろがんばって、みんなにみとめられるようになりたいです。

どりょくすれば、みんなよりとおくても、すこしきょりをちぢめられるということをしりました。じぶんもみんなとはなれているところがあれば、きょりをちぢめられるといいなと思います。

最初は、しずかさんがそういうしょうがいをもっているのはわからなかったけど、さいとう先生はしずかさんのことを教えてくれたからわらわれなくなったんだなと思いました。わたしも、さいとう先生みたいになりたいです。

【資料7】授業の企画及び授業案等（Step1～6）

6年生学級活動の授業を実施

＜Step1＞ 基本構想

・ ○月○○日に実施した「すべての教員対象研修」を受けて、子どもの行動原理について確認し、具体的な指導・支援モデルを得る機会としたい。
・ 「多文化共生」、「他者受容」は、地域や学校の抱える共通のテーマ。
・ 子どもを対象とした「障害理解教育」を行うとともに、教師を対象とした研修をあわせて行いたい。
・ 児童に対しては、発達障害のある児童が環境に適応するための予防的な学習の機会を考えたい。
・ 教師に対しては、例えば、6年生で実施する授業を各学年主任が参観し、各学年の教育活動に取り入れるようにしていきたい。
・ 6年生については、中学校への進学を機に新たな人間関係につまずく児童がいる。こうした児童に対しての学習の一助としたい。
・ 対象は、6学年児童で授業を行う。
・ アクティビティを実施する講師（臨床心理士等）を招聘し、授業を展開する。

＜Step2＞ モデルプラン（草案）

（1） 目標について
例1）疑似新規集団での活動から、対応の具体的な方法を経験的に得る。
例2）協力する活動を通じて、かかわり方を知る。
例3）うまくいかない場合の対応の仕方を知る。
例4）活動におけるミッション達成経験から自己肯定感を高める。
（2） 内容について
例5）他者と関わるためには技術が必要である。
例6）気になる子が問題にならないためには、周囲の環境を育てる必要がある。
例7）自己肯定感を高める指導実践のアイデアを得て、平素の指導・支援に生かす。
【6年生】
集団での活動の中で、他者の個性を尊重するとともに、自分の個性を発揮する機会を通して、人間関係を築く力を高める。

＜Step3＞エクササイズの概要（6年の草案）

ねらい

6年　○　自分の個性を発揮しながら、課題解決を図るアクティビティの体験を通して人間関係を築く力をつける。

内容

（1）　挨拶・自己紹介
（2）　授業のねらいと学習方法の説明
（3）　ウォームアップ（アイスブレーク：簡単な模倣活動で相互の心の距離を縮める）
○「ねらって拍手／リズム拍手」（＝失敗を許し合える・注目させる環境づくり）
・　講師が手を叩く動きを見て、個々の児童が同じように手を叩く。
○「チームを組もう」（＝情報の受発信）
・　講師が合図をしたときに手を叩いた数でチームを作る。
・　男女混合で、他クラスの児童が1名以上いることを条件にチームを作る。
・　条件に合わず、チームが作れない児童が出たら、全員でどうすれば良いかアイディアを出し合って解決する。2回から3回行う。
○「バースデーライン」（＝「自己主張する」情報の受発信）
・　4月生まれから3月生まれまでの順番で一列の輪を作る。
・　互いに音声での会話はしないルール。ジェスチャーで伝えることは可。
・　輪ができたら、声を出して、正しい順序で輪が作れたかを確かめる。
（4）協働体験プログラム：話し合う、合意形成、支え合い
○「パチパチインパルス」（＝チームの一員としての役割を意識、目標の大切さ）
・　15人程度のチームを作り、チームごとに輪になる。
・　スタートの児童が拍手を1回したら、時計回りに隣の児童が続いて拍手1回をするという動きをなるべく早く行う。最後の児童が拍手をしたら終わり。
・　ストップウオッチで計測し、より早くできたことを確かめられるようにする。
○「ヘリウムフープ」
・　6人程度のチームが協力して一つのフラフープを操作する。
・　全員が立った姿勢で指を一本差し出し、フラフープを全員の指の上に乗せる。
・　指で支えたフラフープを落とさないように指の位置を調整しながら、姿勢を低くしていき、フラフープを床に置く。
※　児童の状況に応じ各アクティビティー及びプログラム内容の変更を考える。

＜Step4＞授業案

障害理解教育に係る授業案（第６学年）

１　題材　「チームビルディング」
　学級活動（ ウ　望ましい人間関係の形成 ）

２　本時
(1)　ねらい　・　人間関係調整力を高める。
　　・　共に活動することの楽しさについて考える。
(2)　準　備　ストップウォッチ、フラフープ、など
(3)　展　開

	児童の活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	１　本時の活動を知る ・　講師の話を聞き、本時のめあてを知る。 ２　ウォームアップ 「ねらって拍手／リズム拍手」 ・　講師の動きを模倣する。 ・　手を叩く ・　肩を叩く動きを加える	・　一人で活動することも楽しいが、仲間と活動する楽しさもあることについて投げかける。 ・　動きのある活動で緊張をほぐす。	・　講師の合図に合わせて動作をしている。 ・　チームを組めない仲間にアドバイスを送っている。
展開 25分	１　アクティビティ① 「チームを組もう」 ・　講師が手を叩いた数と同じ人数のチームを作る。 「バースデーライン」 ・　誕生日順に並んで輪を作る。	・　児童同士で言葉をかけ合う姿を積極的に賞賛し、活発に意見を伝えようとする気持ちを引き出す。	・　作戦タイムで改善策を出し合っている。 ・　身長の違いに応じて動きを調整している。 ・　みんなで協力したことを発表している。
	２　アクティビティ② 「パチパチラインパルス」 ・　15 人程度のチームを作り輪になる。 ・　スタートの児童が拍手１回をしたら、時計回りに、隣の児童が拍手１回をするという動きをなるべく早く行う。	・　他のチームと競う状況を作り、児童が工夫を出し合う時間を確保する。	
	３　アクティビティ③ 「ヘリウムフープ」 ・　６人程度のチームが協力して一つのフラフープを落とさないように立ったり座ったりする。	・　うまくいったチームを手本にすることを助言し、自分たちでできそうなことを取り入れて活動する姿を賞賛する。	
終末 10分	○　感想を発表する。 ・　楽しかったこと ・　難しかったこと ・　工夫したこと ・　考えたこと ・　わかったこと	・　児童の感想を受けとめ、認める。 ・　工夫して上手くできたという趣旨の発表を取り上げて、「上手くできたのはみんなで工夫を考えたからだ」と投げかけ、みんなで協力することの素晴らしさについて考えるきっかけをつくる。	

＜Step5＞実施結果等

＜1月21日（木）　6年1組　障害理解教育授業＞

【本時のめあてを知る】
・　もうすぐ中学校に入学することを話す。
・　佐野中は3つの小学校から8クラス、大類中は5つの小学校から5クラスになることを告げる。
・　人間関係はどこに行ってもあり大切にしていかなければならないことを告げる。
・　思いやりが大切、大人の対応をする必要があることを伝える。
・　気配り目配り心配りが大事である。これから中学校で友だちと活動するときに有用であるチームビルディングを行う。
・　グループとチームは違う。グループはただの集団だ。しかし、チームは「ミッション」（使命）がある。答えを出す集団。グループからチームになるようにしたい。

【ウオームアップ】
活動0－1　8回左右の肩をたたく。8番目に手をたたく。4と8で手をたたく。2と4と8で手をたたく。
活動0－2　講師の右手と左手が交差したら手をたたく。
活動0－3　「もしもしかめよ」でグー、パーを交互に出す。
・　コメント「失敗したのは、挑戦したから。挑戦しなければ失敗しない。失敗が大事。失敗の克服の仕方を学ぶことも必要だ。」

【アクティビティ】
活動1－1「チームを組もう」講師が手をたたいた数と同じ人数のチームを作る。
・　拍手で集まる。「はい、集まれ」。仲間はずれができないように、自分だけではなく助け合う。
・　2回目からは、周りを見ながら、気にしながら集まる様子に変化した。自分だけできればいいのではなく、相手を意識している。人間関係構築の大事な点を体験しているように見える。
・　ミッションを考えて相談しながら動くように促す。答えを出さないで、考えるように仕向けている。どう助けてあげられるか、協力して助け合うように指示する。
・　学校は友だちを選んで付き合うことができるが、社会に出たらそうはいかない。誰とでも付き合わなければならない。助け合う練習をしていることを伝える。
活動1－2　好きなおむすびの具同士で集まる。すぐにできるが、少数派もいる。少数派が入ることはよいことだと認める。
活動1－3　好きな寿司のネタどうしであつまる。
活動1－4　卵焼きにつかう調味料で集まる。
活動2　「バースデーライン」言葉を使わずに12月から1月まで並ぶ。経験のあるクラスだったので反対から並ばせた。ルールは分かっていて手振り身振りで伝えながら輪を作ることができた。
活動3　「パチパチインパルス」音送り
・　タイムを計り、ドンドン短くさせた。そのための方法を考えさせた。自分たちから方法が出てくるまで考えさせた。みるみる短くなり達成感を味わうことができた。協力のすばらしさを感じさせた。

＜1月21日（木）　障害理解講演会＞
・　情報の発信は受発信だが必要。活動の中で、黙っていないで自分から発信しないとできない。
・　自分はこうだ、相手はこうだということ、自分で情報を発信する、その場で考え手伝える、受け取る、どうチームを作るか。学校は自分で考えるより、先生に従うことが中心になってしまう。それではいけない。
・　子どもたちの中にどんなことが起きていったかが重要。自然に声を出し合うようになった。
・　変化を目の当たりに見た。指示に答える子どもを育てることを目標に知るのではなく、その先の自分で考えて動ける子どもを育てることが必要。
・　チームとしてミッションを達成する。ミッションはとても簡単なものだが、協力して行うことが大事。

①　最初に失敗を扱うことが大事。
・　年を取るごとに失敗に対する恐れがある。成功の失敗は反対だと考えたら成功しないと全部失敗になってしまう。チャレンジしなくなってしまう。
・　失敗したのはチャレンジしたから。子どもに問いを投げかけることが大事。考えるチャンス、考えるために問いをする。完成形を教えることがよいことだとは限らない。
②　お膳立てをし過ぎない。
・　ああやった方がいい、こうやった方がいいと言わない。自分で考えることをしなくなる。「で、どうするの？」と問えばよい。アドバイスをするとアドバイスをした人のお手柄になってしまう。「あなたたちのチームが考えたからできた」とならない。
③　思いやり、助け合い
・　これは促さないとできない。「ほらどうするの。一人になっちゃったよ」と助け合いを促すようにする。
④　情報の受発信
・　他の人の意見を聞く。

＜Step6＞おたより

〇〇小学校　　特別支援教育エリアサポートだより３０

エリアサポート障害理解教育　　平成 28 年 1 月 28 日

Ⅰ　児童対象の授業「チームビルディング」

講師　東毛若者サポートステーション　　真木　　寛　氏
　　リンケージ　　石川　京子　氏

アクティビティの内容 【　　】内は、ねらい	「　」は、真木先生から教えて もらったこと、 言葉かけ
1　本時のめあて	「新しい学校、社会でやっていく時に、こんなことをするとうまくいくんじゃないかな、ということを今日やります。」
2　**アイスブレーク**＆ウォームアップ ・　肩たたき、リズムで拍手、狙って拍手【チャレンジする事の大切さ。失敗を許しあえる環境作り。】 ・　拍手の数で集まれ【相手を思いやる気持ち、助け合う場を作る】 ・　カテゴリー【情報の受発信、他者の意見を聞きつつ自己主張する】	**「教室は失敗を練習するところ」** **「相手への目配り、気配り、心配り」** **「挑戦したから、失敗しただけ。チャレンジしたことに価値がある」** 「社会に出ると友達は選べない。集団に自分から入れるようにするための練習。助け合う練習を今している」「グループとチームの違い：グループは集団、 チームはミッション（使命）がある」
3　**チームビルディング** ・　バースデーライン【情報の受発信】 ・　ぱちぱちインパルス【チームの一員としての自分の役割を持つ】 	**「チームはみんなでアイディアを出し、助け合う。答えを出し合う。これが大人の対応。」** 「グループからチームになるようにしたい」 「みんなで意見を出し合って、良い方法を考えて」 ・　自分たちから方法が出てくるまで考えさせた。みるみる短くなり、達成感を味わうことができた。

Ⅱ　子どもの感想（子どもから講師の先生への手紙）

昨日の特別授業ありがとうございました。昨日のような授業は初めてで、最初は緊張していたけれど、楽しくてすぐになれることができました。昨日の授業で、失敗はよくあること、協力の大切さを学びました。真木さんは、初めての人とすぐになれることができてすごいなと思いました。中学校では、目くばり、気くばり、心くばりなど、真木さんに習ったことを生かして、いろいろな人と仲よくなり、大人の対応をしていきたいです。中学校でやくにたつ体験などをさせていただき、ありがとうございました。（Y）

1月21日は、いろいろ教えてくださり、ありがとうございました。
私は、新しい中学校生活に変わるのは、すごく不安でいっぱいでした。特に、いじめられたり、友達がちゃんとつくれるか心配でした。でも、真木さんが教えてくれた、人を思いやる気持ちを忘れないこと、しっかり守っていきたいと思います。
あと、いろいろな課題をみんなでやっていくのは、すごく楽しいという事がわかりました。真木さんに習った事を生かして、中学校でたくさんの友達をつくりたいです。（T）

昨日はありがとうございました。
私は始めはきん張していたけど、いろいろなトレーニングや活動をして、すごく楽しかったです。中学生になったら真木さんが言っていた「目くばり、気くばり、心くばり」をして、友達をたくさんつくりたいです。
あと、だれかが心配しても、相手のせいにしないで、みんなで考えて行動しようと思います。良い体験をさせてもらってありがとうございました。（H）

特別授業では、大人の対応について話してくださり、ありがとうございました。グループを作ったときに、一人あまったらどうすればいいかみんなで考えて意見を言いあって、考えることはとても大切なことだと改めて思うことができました。中学生になっても、社会に出てからも、気配り、目配り、心配りをきちんと守って生活できるようにしたいと思いました。（I）

私は、今までは自分ができてさえいればあまり他の人のことは気にしませんでした。でも、真木さんから教わった「気配り」「目配り」「心配り」の3つを授業でやって、これからはこの3つをずっと生かしていきたいと思いました。バースデーラインやおにぎりなどの好きな物どうしで集まるのも、自分ができていても周りを気にすることができました。このことを中学生になっても忘れないようにしたいです。（K）

Ⅲ　障害理解教育の授業に関する講義

○　石川さんより

・　子どもたちは、緊張していたが、授業の最後はリラックスし、楽しくできた。
・　意見を出し合いながら、チームができていた。
・　「チームとして、ミッションをクリアする」学習で、ミッション自体は簡単だが、すべてにおいて、自分で考えていかないといけない活動だった。
・　成功の反対は「失敗」と思いがちだが、成功のもう一方にあるのは何かな？と高校生ならば問いかける。
・　チームビルディングの主体は

①　**最初に「失敗」を扱う**。年を重ねると、「失敗してはいけない。」と考え、だんだんチャレンジしなくなる。そうすると、成長するチャンスをなくしてしまう。チャレンジしたことに価値がある。完成形を教えることがよいことだとは限らない。
②　お膳立てをしすぎない（先生からの指示が多いと考えなくなってしまう。）で考えさせる。「で、どうするの？」と問えばよい。アドバイスすると、アドバイスした人の手柄になってしまう。**問いを立てて、子どもたちにたっぷり時間を与え、成功の手柄を子どもたちに与える。子どもたちが考えるためには、問いかけが必要。**「君たちのチームが考えたからできた。」と言葉をかける。子どもたちは、この経験を生かして中学に行く。
③　思いやり、助け合い　：子どもが一人になっていたら、先生が動きみんなを注目させ、助け合うことを促すのは必要。
④　情報の受発信　：他人の意見を聞き、自分の思いや考えを伝える。

○　真木さんより

・　リーダーが導いてくれればいいという考えに子どもたちもなっている。違う視点「みんなで助け合う」ということが大事。
・　リーダーは一人でいいが、リーダーシップをとる子、フォローアーシップをとる子。グループに必要なのは、時間の管理などもしてくれるマネージャーとかの存在が大事。
・　自分で動かないといけない。段取りは子どもに考えさせる。お膳立てがないと動けない子がいれば、子どもたちが助ければ良い。
・　自分の意見が少数派でも、流されずにそこを通していたのは良かった。
・　コミュニケーションとは何だろう？と考えてほしい。
・　バースデーラインも、学期始めだけでなく、春夏秋冬やっていいものなので、実践していってほしい。

Ⅳ　感想発達障害理解教育及びすべての教員研修のアンケート

①　障害理解教育（チームビルディング）の授業を見て

参考になった項目	授業の流れ	1人
	講師の言葉かけ	11人
	アクティビティの内容	14人
	児童の感想	
	アクティビティのねらい	10人
	その他	

＜参考になったこと＞

○　講師の言葉かけ
- 児童を安心させる言葉かけ
- どういうことが大切なのか、なぜこれをするのかの説明
- 目配り、気配り、心配りの大切さ。人間関係を築いていくために、していかなければならないこと。失敗体験など。

○　アクティビティの内容
- 自然に声が出ながら仲間分けができたことが良かった。バースデーライン（ジェスチャーで受発信）が面白そうだった。
- 授業で関係づくりの生かせそう
- 世の中、失敗だらけ。どう解決、対応していくのかという説明。
- 挑戦すること、失敗を克服すること。
- アイスブレイクは、学級開きの時に使える。

○　アクティビティのねらい
- 子どもたちが自分たちで考えて、解決する時間を大切にすることがよく分かった。
- この活動がどういう意味を持っているのかが、繰り返し言うことで児童によく分かり、意欲的に取り組めた。
- 子ども達の言動の変容を見て、アクティビティにはねらいがあるのだ、ということが分かった。
- 自分から行動する、みんなで一つの目標に向かってがんばる、という態度を身につけさせること。

○　その他
- 児童の変容：「自分だけがよければいい」から、「どうやってみんなで助け合っていくか」と考えられるようになった。個人からチームとなっていく流れが参考になった。

②　アクティビティを取り入れそうな時間

教科学習				1人		
体育	国語	生活	社会	算数	理科	外国語活動
7人		1人				4人

教科外			1人	
朝の会	特活	道徳	帰りの会	総合
1人	17人	9人	1人	3人

※　教科外では、いろいろな時間を工夫して使えそうですね。

具体的な活動のアイディアがあれば、お書きください バースデーライン、アイスブレイク

③　児童生徒に対する発達障害理解教育を行うにあたり、不安や悩んでいること

発達障害に関する学習を進めていくと、発達障害の子に対し、周りの子が障害のある者と見なすようにならないか心配である	6人
発達障害の子に対し、周囲の子からどのような反応が現れるのか心配である	8人
発達障害の子が不安にならないか心配である	5人
当該の子が発達障害の話題をどのようにとらえるのかが心配である	3人
発達障害の話題の提示で、当該の子が傷つくような状況が起きないか心配である	4人
発達障害という言葉を児童生徒に伝えて学習する方がよいのか迷っている	5人
発達障害のある児童生徒を特定して学習する方がよいのか迷っている	4人
特定の子に特別の支援を行うことが、他の児童生徒にとって不公平感を持たせることにならないか心配である	5人

(　　)その他

なし

④　授業内容で講師に聞きたかったこと(具体的に)

発達障害を持つ子、集団に溶け込めない子が、どう活動に参加するか。 子どもたちに任せるという以外にどういった手立てがあるか。

⑤　今後、人間関係形成を進める中で、講義の内容で役立ちそうなことはどのようなことですか。

・　みんなで考える　　・　段階に応じた言葉かけ　　・　大人の対応を求めること ・　教師があまりお膳立てしないこと　　・　自分の考えはきちんと相手に伝えること ・　自分だけがよければいい、というのではなく、チームとしてみんながよくなるようにする、という態度を身につけさせていくという目標。 ・　地域合同の学校保健委員会で取り入れたい。

⑥　発達障害に関して、今後どのような内容を研修したいですか。

発達障害全般について知りたい	
発達障害のうち、特に学習障害について知りたい	2人
発達障害の特性について知りたい	
発達障害の子どもに対する具体的な対応方法について知りたい	9人
発達障害かどうかを判断する基準、検査方法を知りたい	
学級集団の中で、発達障害の児童生徒をどのように生かすのか知りたい	8人
悩む子ども自身の言葉や、一人一人の個性や可能性について理解を深めたい	2人
「見えにくさ」「聞こえにくさ」体験や、不安やストレス等の感情体験を経験したい	2人
パワーポイントやアニメーション、音声なども活用して視覚的・聴覚的な疑似体験のできるプログラムをお願いしたい	1人
座位でできる疑似体験を通して、障害者の不自由さ等について体験したい	2人
「苦手なものがあっても、個性を伸ばしていけばよい」と思わせる内容にしてほしい	
発達障害に関する相談をする場合の連絡先、専門機関を知りたい	2人
専門医の診断を受けた方がよいのか、保護者にどのように説明したらよいのかについて知りたい	7人
発達障害の子の進学、進路についての情報を教えてほしい	5人

【資料8】実施要項及び企画、授業案（Step1～3）

学校全体で同じ時期に授業を実施

○○小学校「障害理解教育」実施要項

１　目　的

○　学級活動を通じて児童への発達障害理解を図ること。

○　障害のある生徒と障害のない生徒が共に学び合える学校づくりについて、共通理解を図ること。

２　主　催

群馬県教育委員会

※　本研修会は、発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業（発達障害理解推進拠点事業）の一環として実施する。

３　期　日

平成２８年１月１８日（月）～３月１日（火）の内、６日間

４　会　場

草津町立草津小学校

吾妻郡草津町大字草津３番地１　　０２７９－８８－２１５６

５　内容等

「障害理解教育授業」の実施

※「障害理解教育」とは、児童生徒を対象とした発達障害理解教育に係る授業実践を行うこと。自己理解・他者理解に係るエクセサイズ、グループエンカウンターを含む。

６　日　程

【１年】「いちねんかんをふりかえろう」（生活科）

１１時４０分～１２時２５分　１年教室

【２年】「つくってあそぼう（おもちゃランド）」（生活科）

９時４０分～１０時２５分　２年教室

【３年】「いいところを見つけよう」（学活）

１０時５０分～１１時３５分　３年教室

１１時４０分～１２時２５分　３年教室

【４年】「うれしくなる言葉を見つけよう」（学活）

１１時４０分～１２時２５分　４年教室

【５年】「チームビルディング」（学活）

１１時４０分～１２時２５分　体育館

【６年】「自分で考えて行動しよう」（学活）

１０時５０分～１１時３５分　６年教室

１１時４０分～１２時２５分　６年教室

＜Step1＞ 企画の提案

「障害理解教育」に係る授業実践（講演）に関して、希望をお聞かせください。

- 学年毎又は低～高学年の3ブロックで45分授業を行う。
- 講師は、担任又はサポーター
- 障害のある人について、児童は総合的な学習の時間、人権教育などを通して学習してきているが、身体に障害のある人や目や耳に障害のある人等の、見た目や体験でわかりやすいことのみであるため、目に見えない障害である例えば発達障害にかかわっていくような授業になるようにしたい。
- 障害のある人に対する価値観を学ぶという点では、道徳や特別活動の時間での学習が考えられる。
- 他者とのかかわり方が変わるきっかけになるような授業にしていきたい。

＜Step2＞ モデルプラン

- 全ての学年で、学活を基本として授業を行う。
- 講師は内容と子どもたちの実態に即して決定する。学級づくりという面では、担任が行うことが望ましい。
- 小学生に対し、直接的に「障害」を取り上げるだけの素地が、草津小の子どもたちにとっても、学校風土としてもできていないため、「自分を認めること」「他者を認めること」「中間づくり」といった面からアプローチしていく。
- キーワードは「 みんなちがって みんないい 」とする。
  - → 低学年担任より、生活科としての目標に「他者とのかかわり方」に関するものがあるので実施したいという希望があった。
  - → 学習指導要領や教科書等を検討した結果、実施できると判断した。

＜Step3－①＞授業案

生活科　学習指導案（１年）

授業の視点

友だちの得意なことについて知ることは、他者のよいところを探すきっかけとなったか。

１　単元名　「 いちねんかんをふりかえろう 」

２　本時の学習　（６／６）

（１）ねらい　楽しかったことやできるようになったことの伝え合いから、友だちの成長に気付き、認め合う。

（２）準備　　発表用の絵、よかったねカード、メダル

（３）展開

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点・評価 （◇評価　◎要努力児童の支援　☆ＵＤによる手立て）
つかむ	１　「よかったねカードこうかんかい」の説明を聞き期待を持つ。	５	☆発表の絵を黒板に貼っておく。 ○先日の発表会を簡単にふり返りながら、発表内容は、皆違っていたことを押さえておく。 ○本時は前時の保護者向けの発表会に向け、自分で見つけた友だちの成長を思い出すことを伝える。
追求する	２　１年間でできるようになったことの絵を見ながら、それぞれの発表をふり返る。 ３　友だちの成長について、気付いたことを伝え合う。 ・よかったねカードを発表する。	35	○「絵を抽出→当事者は前へ出る→ペアの児童が当事者に当てたよかったねカードを読む」を順次繰り返す。 ☆児童の関心がそれないようくじを引きをしながら進める。 ○Ｔ１：発表内容及びカードの内容についてコメ　ントする。Ｔ２：くじを引かせて、該当する絵をホワイトボードに移す。 ◎集中の途切れがちな児童に注意を促す。 ○発表及びカードの内容について、肯定的な評価をし、他の児童にも感想を言ってもらう。
まとめる	４　お互いの成長を認め合う。 ・「みんなちがってみんないい」ことを確認する。 ・メダルとカードをそれぞれ交換する。	５	○発表内容に序列がつけられるか考えさせ、できないことに気付かせて、「みんなちがってみんないい」という言葉を導き出すようにする。 ◇友だちの成長を認める発言ができているか。

＜Step3－②＞授業案

生活科　学習指導案（２年）

授業の視点
おもちゃを介しての異学年交流は、かかわりのない子と遊ぶきっかけとなったか。

1　単元（題材）名　「つくってあそぼう（おもちゃランド）」

2　本時の学習（１４／１５）
（1）ねらい　自分たちで作ったおもちゃをとおして、異学年同士で一緒に遊べる。
（2）展開

過程		学習活動 ・予想される児童の反応	時間	支援及び指導上の留意点・評価 （◇評価　◎要努力児童の支援　☆ＵＤによる手立て）
つかむ	振り返り導入	1　各グループごとに遊びに来てくれた１年生に、おもちゃの紹介をして一緒に遊ぶ。	5	☆今日の目標を確認しておく。 ☆事前にリーハーサルを行っておく。 ☆説明やあいさつ文の台詞の紙を事前に準備しておく。
考える	集団解決	2　おもちゃの説明が分かりにくかったり、ルール変更が必要だったりしないかを考え、説明や遊び方を工夫する。 【２松】 魚つり・ふくわらい・ぶんぶんごま・レーシングカー・ボーリング・コトコトハムスター・ロケット・さいころ・ストローアーチェリー・くじ 【２竹】 かんかんレース・輪投げ・ロケット・コトコトハムスター・レーシングカー	15	・１年生が楽しめるよう、用意した台詞を言うなど、遊び方の説明を工夫するように促す。 ◎手本を見せるように伝える。 ◎優しい言葉を一緒に探す。 ・遊びの中に入れない１年生がいたら、声をかけるようにする。 ◎手を繋いで、遊ぶ場所に連れて行くように促す。 ・困ったことが起きたときには、子供同士で考えられるよう、まずは見守る。 ・全体の動きを確認しながら、教師も客になって手本を見せる。 ◎誘い方が難しいときは、隣で気持ちや説明を代弁し、かかわりのきっかけを作る。 ◎１年生が楽しめるよう、前向きな言葉を使って応援するように伝える。 ◇全ての１年生が笑顔になっているか。
身に付ける	習熟汎用	3　違うクラスの１年生ともう一度遊ぶことで、うまくいったことを繰り返したり、うまくいかなかったことをやり直したりする。	20	・１年生を楽しませることの大変さや、充実感を味わわせるために、たくさんの友だちと交流できるようにする。 ◇「うまくいきましたか」という質問に、子どもなりに工夫したポイントで答えている。
まとめる		4　工夫してうまくいったこと、もっとうまくやりたかったことを、次時に扱うことを知り、期待を持つ。	5	・自主的に活動を広げていけるように意欲付けをする。

＜Step3－③＞授業案

学級活動　学習指導案（３年）

授業の視点
友だちからもらった手紙をきっかけに、自分のいいところに気づく

1　題材名　　「いいところを見つけよう」
2　本時の学習
（1）ねらい　自分と友だちは考えることや得意なことは同じではないが、それぞれいいところがあ　ることに気づく。
（2）準備物　事前に交換した友だちの良いところ探しの手紙
（3）展開

学習過程		学習活動	時間	指導上の留意点（・）（☆ＵＤの視点による手立て）	評価項目（方法）
つかむ	導入	1　今までに取り組んだ「友だちのいいところ探し」を思い起こす。	5	めあて「自分のいいところを見つけよう！」 ☆友だちからもらった手紙や自分で考える自分の良いところを見つけることを知らせる。 【本時のキーワード】 「 みんなちがって、みんないい 」	友だちのいいところを、手紙にしたときの気持ちを思い出せたか。
考える	課題提示	2　友だちからもらった手紙を読み返し、うれしかったこと、違っていて複雑な思いになったことなどを発表する。	10	☆　発表が出来たら「君は○○が得意なんだね、すごいね」「さんは○○をがんばっているんだね」と声をかけながら、「みんなちがって、みんないいね」と、キーワードを繰り返し伝える。 ☆　うれしかった言葉や自分の評価と違ったこと等の点に気持ちを向けられるように、「自分もそう思っていたので○○と言われて○○うれしかったんだね」「自分は△△と思っていたけれど、○○と言われて（違って）うれしかったんだね」と声をかける。	思いもかけない言葉や視点でうれしさを感じたことに気づいたか。
身に付ける	習熟汎用	3　自分で自分のいいところを見つけプリントに記入し、友だちと見せ合うとともに読み合う。	20	☆　記入が難しい児童には「○○のことを書くといいよ」「自信がなくても○○君が△△って言ってくれたから書いてみたら」などと声をかける。 ☆　「自分の良いところ」をお互いに伝え合う。「ぼく・私とはちがうけど　とてもいいね！」と声をかけ合う。	積極的又は恥ずかしがりながらも笑顔で読み合えているか。
まとめる	評価	4　自分と友だちが違うことについて、それでいいと実感する。	10	・　人と「違う」所はたくさんあり、心配な時もあるが、そのままでいいことを伝える。 まとめ「みんなちがって、みんないいんだね！」	「違ってもいいんだ」「よかった」というつぶやき

＜Step3－④＞授業案

学級活動　学習指導案（４年）

授業の視点

心がうれしくなる言葉探しを通して、お互いを認め合うことができるということに気づく

1　題材名　　「うれしくなる言葉を見つけよう」

2　本時の学習

（1）ねらい　自分と友だちは考えることや得意なことは同じではないが、それぞれいいところがあることに気づく。

（2）準備物　事前に交換した友だちの良いところ探しの手紙、メモ用の紙 A3

（3）展開

学習過程		学習活動	時間	指導上の留意点（・） （☆ＵＤの視点による手立て）	評価項目 （方法）
つかむ	導入	1　今までに取組んだ友だちのいいところ探しを思い起こす。	5	☆　友だちからもらった手紙で「うれしかった気持ち」を確認する。 【本時のキーワード】「みんなちがって、みんないい」「うれしくなる言葉」	手紙をもらったときの気持ちを思い出せたか。
考える	課題提示	2　友だちからもらった手紙を読み返し、うれしかったこと、違っていて複雑な思いになったことなどを発表する。	10	☆　発表が出来たら「君は〇〇が得意なんだね、すごいね」「さんは〇〇をがんばっているんだね」と声をかけながら、「みんなちがって、みんないいね」「うれしい言葉だったね」と、キーワードを繰り返し伝える。 ☆　うれしかった言葉や自分の評価と違うことでもに気持ちを向けられるように、「自分もそう思っていたので〇〇と言われて〇〇うれしかったんだね」「自分は△△と思っていたけれど、〇〇と言われてうれしかったんだね」と声をかける。	思いもかけない言葉や視点でうれしさを感じたことに気づいたか。
身に付ける	習熟汎用化	3　もう一度友だちのいいところを見つける活動をして、自分がうれしくなる言葉を見つける。	20	めあて「うれしくなる言葉を見つけよう！」 ☆　自分が一番うれしかった言葉を決めて、グループで発表し合う。うまく決められない児童には「〇〇と言われて自信がついた・もっと頑張ろうと思ったんだね」と声をかける。 ☆　発表ができたら拍手をする。	うれしくなる言葉をきめることができたか。
まとめる	評価	4　自分と友だちが違うところはあっても、お互いに認め合おうという気持ちを持つ。	10	・　人と「違う」所はたくさんあるが、うれしくなる言葉を使うことでお互いを認め励まし合えることを伝える。 まとめ「みんなちがって、みんないいんだね！」	「これから、こういう言葉を使ってみよう」等のつぶやき

＜Step3－⑤＞授業案

学級活動　学習指導案（５年）

授業の視点

普段係わりが少ない友だちと活動を楽しむことができたか。

1　題材　　「チームビルディング」

2　本時の学習

（1）ねらい　・　最高学年という学校での役割を担う来年に向け、自分らしさを発揮しながらも他者と人間関係を築く力をつける。

・　それぞれが考えることやできることはみんな同じでないが協力することで楽しい活動ができることを体験する。

（2）展開

学習過程		学習活動	時間	指導上の留意点（・） （☆ＵＤの視点による手立て）	評価項目 （方法）
つかむ	導入	**１　本時の活動を知る。** ・授業者の話を聞き、本時のめあてを知る。	5	めあて「一人でも多くの人と活動しよう」 ・　最高学年として学校を牽引するリーダーとして活動する中で、よりよい人間関係を作る上で大切なことがあるということについて投げかける。 【本時のキーワード】 「一人でも多くの人とチームを組む」 「みんなまったく同じではない、ちょっと違いがあるがみんないい」	・表情 （うなづきやつぶやき）
		２ウォームアップ 「リズム拍手/声出し」		☆　「みんなうまく出来たかな。助けが必要な人がいたら声をかけてみてね」と声をかける。 ・　何度か行い手順を理解させる。	・友だちに声をかけている。
考える・身に付ける	課題提示・解決	**３アクティビティ①** 「チームを組もう」 ・ウォームアップの活動を利用し、チーム作りをする。	15	☆　一人でも多くの人と活動が出来るように、お互いに声をか合いながら、グループ作りをさせる。 ☆　チームに入れない人がいたら、「どうしたらいいのかな？」と投げかけ、話し合いをして解決を促す。 ・　人数は４人、７人、８人と増やす。	・お互いに声をかけ合いながらグループを作ることができる。 ・建設的な意見を言っている。
		４アクティビティ② 「人間知恵の輪」 ・１４人のグループを作り、リーダーを１人決め知恵の輪を作り、対戦する。	20	☆　ゲームのやり方を伝えるために、一つのグループに協力してもらい実演する。 ☆　「声をかけながらすると速くほどけるかもね」と積極的に声を掛け合うことを伝える。 ☆　ゲーム中のトラブルは、どんな言葉を使うといいのかを考えさせる。	・ゲームのルールが分かる。 ・よいアイディアを出している。 ・建設的な意見を言う。
まとめる	評価	**５感想を発表する。** ・楽しかったこと ・難しかったこと ・うまくいったこと ・がんばったこと ・感じたこと	5	☆　本時のキーワードを伝えながら、まとめとする。 ☆　協力ができた等の趣旨の感想を取り上げ「チームワークが取れたのは、みんな違う考えを持っていたり、それぞれの思いは多少違うが楽しもうとして協力したからだ」と、まとめとする。 まとめ「活動する前と活動後の気持ちを比べてみよう」	発言の仕方 聞き方

＜Step3－⑥＞授業案

学級活動　学習指導案（６年）

授業の視点

考えをイメージ化したり、認められたりすることで、意思決定できたか。

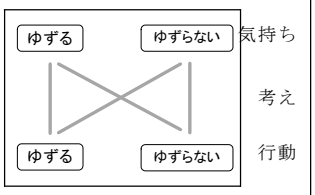
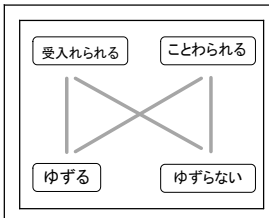
1　題材　　「自分で考えて行動しよう」

2　本時の学習

（1）ねらい　・　行動しようとするときに考えることは、みんな同じでないことを体験する。

　　・　相手の気持ちを察して行動しようとすることを決める。

（2）展開　　（準備：まとめ用Ａ３紙：グループ数、マーカー、メモ用紙①②）

学習過程		学習活動	時間	指導上の留意点（・） （☆ＵＤの視点による手立て）	評価項目 （方法）
つかむ	導入	1　教師の役割演技①を見て、自分だったら席をゆずるかどうかについて考える。	15	めあて「友だちの考えをたくさん聞こう。」 ・　考えて行動する仕組について**イメージ図を提示（☆）**する。 【本時のキーワード】 「考える」「みんなまったく同じではない、ちょっと違いがある」「相手の気持ちを考える」	うなづき つぶやき 友だちとの会話 メモの仕方 メモ用紙①
考える・知る	課題提示①	2　気持ちから行動に移すときに、どんなことを考えるかについて、話し合う。 ・４人グループにわかれて考え方を出し合う。 ・何を考えたかを、Ａ３紙にまとめる。	15	・　気持ちから行動に移すまで**考えるということについてイメージ図の線分で示し、考えたことを線分にそって書き表すように助言（☆）**する。 ・　同じ気持ちや行動でも、自分と他者の考えには違いがあることに気づけるよう、**「○○君の考え方を説明してください。」（☆）**や「気持ちと行動が違う人はいろいろ考えているんだね。」などと言葉をかける。  イメージ図①	発言の仕方 Ａ３紙 視線 友だちとの会話
	意思決定①	3　全体で各グループのまとめを発表し合う。			
考える・決める	課題提示② 意思決定②	4　「断られる」役割演技②を見て、断られた経験の後、違う人の時に自分がどんな行動をするか決め、考え方を話し合う。	10	・　児童の「どんな人かわからないから…」や「次は違う人かもしれない」といったことばから、相手の気持ちを察する大切さに気づけるようにする。  イメージ図②	メモの仕方 メモ用紙②
まとめる	評価	5　相手の気持ちを察することの大切さを考えながら自分の行動を考える。	5	・　児童の決めた行動を挙手や発言で確認しながら、改めて本時のキーワードを伝えながら、まとめとする。 まとめ「行動する前、した後に相手の気持ちを考えてみよう。」	発言の仕方 聞き方

【資料9】道徳学習指導案(H30年度)

道徳　学習指導案（中１年）

平成３０年１０月３日（水）第４校時（１１：50～１２：40）
１年１組（指導場所：１年１組教室）
指導者　○○　○○

Ⅰ　主題名　　公正・公平さを重んじる心（内容項目C-(11)公正、公平、社会正義）
資料名「マルクス・レーム、義足のアスリート」

Ⅱ　考察

１　主題設定の理由

≪学習指導要領における位置付け≫

この主題は、学習指導要領における第３章「道徳」、第２の「内容」のＣ「主として集団や社会との関わりに関すること」の(１１)「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める」ことを指導内容として位置付くものである。

≪ねらいとする価値≫

人間は互いに助け合い、協力し合って生きている。根拠のない思い込みや偏見による差別は基本的人権を脅かすことにつながる。人は誰もが自由・平等であり、幸せを追求するために生活している。誰もが、差別や偏見のない明るい社会を実現するために正義を重んじたり、私心にとらわれないように努めたりすることが不可欠である。自他の不公正に気付き、それを許さないという断固とした姿勢と社会全体で力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうと努力することが重要である。中学生の時期は、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自分と関わる人への偏見を抱いていたりする。一方で、偏見を抱くことはいけないと思っている。しかし、自他の不公正を正すことには難しさがある。

例えば、席替えで嫌悪感を抱いたり、理由や根拠もなく態度を変えたりする場面がある。このようなことは、他者の人格を否定するような行動や言動につながりかねない。また、周りも傍観者になりがちで、「見てみぬふりをする」という消極的な立場になってしまいがちなことが多い。そのため、自他の不正な言動や行動を自覚させ、それらを断固として否定するような心情をもち態度に表すことが大切だと考え、本主題を設定した。

２　主題の系統

主題は自己を集団や社会との関わりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図るものである。また、障がいがある人も健常者と同様の生活ができるように支援するべきという「ノーマライゼーション」という考え方があり、本主題の設定には「障害者理解」も含まれている。公正・公平の不快議論とするために、朝学習の時間を使って、平成２２年度第３０回全国中学生人権コンテスト入賞作品「私の大好きなふる里」を読ませ、差別や偏見をなくすのには、正しい知識をしっかり学ぶことにあることに目を向けさせ「かわいそう」「大変だ」などの感情論だけで物事を判断させないような手立てのひとつとしたい。また、正しい知識がないと東日本大震災で話題となった「風評被害」のように、うわさによって、偏った見方にならないように資料を活用し、生徒たちの日常で起きている会話や仲間とのかかわり方にも気づけるようにしたい。本時は、多くの人と関わって生活していく中で、改めて、自他の不正な言動や行動を自覚させ、それらを断固として否定するような態度を表現する心情を育てていく。

3　生徒の実態（男子17名 女子17名 計34名）

※ 学校生活の中での教師の観察、アンケートからとらえた生徒の実態をまとめた。

入学当初より、学級の中では「好き嫌い」「損得」の感情を表に出したような仲間とのかかわりが強く、接する仲間によって関わり方が代わったり、しゃべり方が乱暴になったりと他社を尊重しながら、温かい雰囲気を作ろうとする手助けする生徒が少なかった。また、小学校で気づいた長年の人間関係から、過去の出来事にとらわれすぎてしまい、公平に接し続けようとする真情を育てることは難しい状況であった。一方で、自分の不公正に気づいたり、感情だけで物事を判断したりしないようにする生徒も目立つような機会が学校生活の中で増えてきた。そこで、公正・公平さを重んじる心に気づき、自他の不公正をあたら馬手行くような機会が必要だと考える。

4　資料観

本資料に登場するのは、ドイツを代表する陸上競技選手マルクス・レーム氏である。実在するパラリンピアンであり、今年度は正田醤油スタジアムでジャパンパラ競技大会が行われ、世界新記録（8m47cm）を樹立した。

右足に義足をつけたレーム選手が2011年の世界選手権での優勝を皮切りに、同種目を象徴するアスリートとして世界を牽引している。2012年ロンドンパラリンピックでの優勝を経て、2014年に開催されたドイツ国内のナショナルチャンピオンシップにおいて、健常者を相手に優勝を飾る。同大会はリオデジャネイロオリンピックの選考大会を兼ねており、レーム選手がオリンピック代表に選ばれるかどうかが世界中の注目を集めた。障がい者と健常者が同じフィールドで競い合えるのか、ドイツの陸上協議連盟が義足を付けたレーム選手をリオオリンピックに選出するのか、また今後に行われる東京オリンピックや世界選手権などに選出するか否かに焦点を当てた資料である。

5. 事前・事後の指導

- 事前にアンケートを配布し、本主題に関するアンケートを行い、生徒の実態や意識の状況を把握する。
- 1学期の人権週間に視聴し書いた作文から、視覚に障がいをもつ男性について「気の毒」や「大変だ」という視点ではなく、障がいがあっても健常者と同じように生活することができるという視点を生徒達は知っている。
- 平成22年度第30回全国中学生人権コンテスト入賞作品「私の大好きなふる里」を事前に読み、公正・公平の議論が感情論だけに偏らないようにする。

Ⅲ　指導上の支援及び留意事項（**エリアサポート事業との関わり**）

1　議論の時間を十分に取れるように、文章を表などに変えて、資料を短くする。

2　より高い道徳的価値を追求したいことから資料の教師の範読を行う。

3　本時の流れを黒板に示し、先を見通せるよう項目を表示する。

4　読み物資料の文章量を減らすために、一部を表にしたり概要をまとめたりする。

5　ねらいを達成することにおいて、以下の点に注意しながら学習活動を行う。

＜書く場面＞

・　生徒ひとりひとりが資料の内容について自分の考えをもち、記入できるように時間配分をする。

・　時間の確保だけでは自分の考えをまとめられない生徒には、マルクス・レーム選手や他競技者・関係者、連盟などの決定機関の人物の気持ちに目を向けることができるような補助発問などの支援を行い、自分の考えをもたせたい。

＜議論する場面、発表する場面＞

・　発表する際に自分の考えに不安を抱く生徒もいる。そこで、近くの生徒と意見を交わすことで発表する前に自分の考えに自信をもたせたい。

・　記入した自分の考えを発表できるように促し、様々な考え方や見方があることに気付くようにする。

・　発表した内容と生徒たちがもっている考えをつなぎ合わせるために挙手を促したり、意図的な指名を行ったりする。

・　生徒がマルクス・レーム選手や他競技者・関係者、連盟などの決定機関の人物の心情を考えたり、気付いたりしたことをワークシートに表現する。

・　生徒ひとりひとりが自分の考えを深めることができるように、発問を段階的に簡潔に行い、考える時間を十分に確保する。

・　付箋を使って、意見を書き出し、そのまま議論で使うワークシートに移し替えて話し合いを行う。

＜一斉学習の中で、特に、留意する点＞

・　授業を進める中で、生徒ひとりひとりの意見が埋没してしまわないように発表した内容と自分の意見を近くの生徒と確認し、自分の考えや立場を明確にする。

・　生徒ひとりひとりが、話し合いやすく発表しやすいような雰囲気をつくるために、生徒の意見をまとめる際に、発表した言葉をそのまま残すように板書などを行う。

・　中心発問の場面では、レーム選手が東京オリンピックにドイツ代表として選出するかしないかを、班別になり議論（話し合い）を行う。

・　生徒が議論・発表した内容を踏まえて、自分を振り返る時間を設定する。特に、何かを選ぼうとする際に好みで選んだり、噂や集団の意見に流されたりしていないかと問いかけ本時のねらいにせまる。考え、記入する時間を十分に確保し、生徒ひとりひとりが振り返りを行えるようにする。

Ⅳ　エリアサポートモデル校が行う研究内容との関わり

本年度、本校は群馬県教育委員会特別支援教育課の指定により、発達障害があるなしにかかわらず児童生徒の一人一人が活躍できる授業の実践に重きを置き、授業の研究と実践を行っている。50分の授業の中で一人一人が活躍できるように以下の点に留意しながら授業の実践を行う。

①　日頃の観察より生徒の特性を理解し、机間支援での声かけや作業進度の確認を行う。
②　先が見通せるヒントとして本時の流れを項目で示す。
③　どこを見れば良いのか指さし棒を用いて、生徒の視線を定める。
④　指示が理解できるように発問を端的に行う。
⑤　指示が解釈できるように間をとる。
⑥　長い説明を行う際は区切り、単語の補足説明を入れながら進める。
⑦　書くこと、聴くこと、話すことのメリハリを付けて授業を進める。

Ⅴ　本時の学習

1　ねらい

◎　マルクス・レーム選手の気持ちを捉え、レーム選手をとりまく周囲からの視線や批判など、オリンピックに出場できるかどうかの判断の様子を考えることで、他者の痛みや感情に共感し、生徒自身がクラスの仲間に対して公平に接したり、差別や偏見のない社会の実現に努めようとしたりする心情や態度を養う。

2　準備

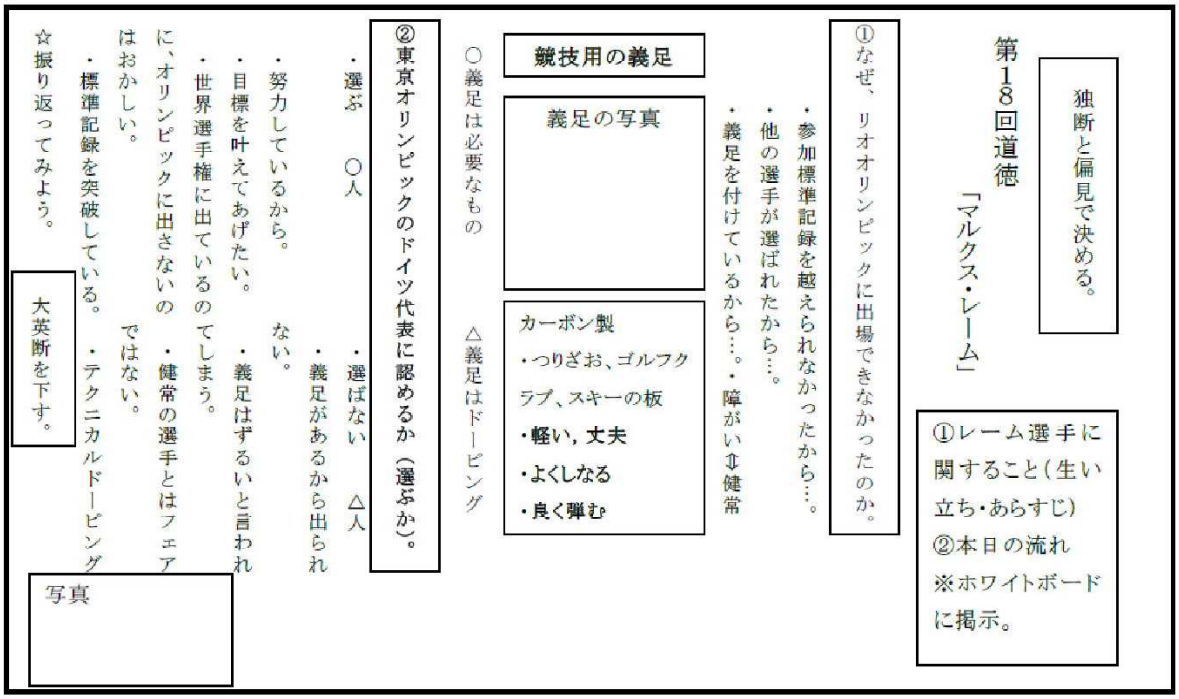
◎　読み物資料「マルクス・レーム」、マルクス・レーム選手に関わる説明用の模造紙、挿し絵、ワークシート、板書用のフラッシュカード、本時の流れ（やること）が分かる模造紙、パソコン一式

3　展開

過程 (時間)	○学習活動	形態	＊主な発問 ・予想される生徒の反応	◇指導上の支援および留意点 ☆エリアサポート事業との関わり
導入 (5)	○本時の主題が「不公平や偏見」であることを知る。 ○本時の資料について知る。	一斉	＊今日の授業の流れです。 ＊「独断と偏見で決める」という言葉を知っているかな？ ・好み（好き嫌い）で物事を決める時に事前に断りの言葉として使う。 ＊２年後のオリンピックはどこで開催されますか？ ・日本です。 ・東京です。	☆ホワイトボードに掲示した本時の流れの模造紙を示す。 ◇本時の主題を知るために、よく使われる言い回しについて触れる。 ◇資料が陸上競技（走り幅跳び）を題材にしたものであることを知るために、マルクス・レーム選手の競技の動画を見る。
展開 (30)	○映像資料からレーム選手ついて把握する。 ○あらすじから、レーム選手の生い立ちなどを把握する。 ○読み物資料「マルクス・レーム」を聴く。	一斉 ↓ ワークシート (個別)	＊映像の内容について聴く。 「競技は？いつの？だれ？」 ・走り幅跳び　・オリンピック ・マルクス・レームさん ＊なぜ、リオデジャネイロオリンピックに出場できなかったのだろうか。 ・義足を付けているから。 ・基準に達していないから。 ・他の選手が選ばれたから。 ＊義足について知っているかな。 ＊体育大会があったけど、走り幅跳びはどうやれば遠くに飛べるかな。 ・足が速い。・身長が高い。 ・ジャンプ力がある。・練習。・努力。	☆生徒の考える時間を確保したり、反応を良くしたりするために、発問を短くする。 ◇レーム選手についての生い立ちなど（あらすじ）を説明し、模造紙で掲示しておく。 ◇中心発問において、それぞれが意見をもてるように義足の性能や利点、オリンピックの参加について目を向けさせる。 ☆集中が長続きしない、文を追うのが苦手な生徒のために文章は短く構成し、適度な速さで読む。
	○東京オリンピックのドイツ代表に選ぶかどうかを考え、その理由をもとに議論を行う。	一斉 ↓ 班別 (4～5人) ↓ ワークシート (個別)	**＊東京オリンピックのドイツ代表に選出してきた。認めるか・認めないか。** ○認める（選ぶ）。 ・世界選手権に出て、いろんな基準がクリアできたのだから、選ぶべき。 ・選ばないという選択がおかしい ・努力し、標準記録を突破しているのだから、代表にすべき。 ⇔彼の義足の性能は？ ⇔ずるいと疑いのある選手を認めるのか？	◇フラッシュカードや資料をもとに、「選ぶ・選ばない」を決め、クラス全体でどのくらいの割合がいるのかを確認する。 ☆クラスの仲間がドーピングと疑われている。あるいはずるいと言われているが出場を認めるか。 ☆円滑な話し合いが始められるように、司会者を決める。 ◇ねらいに迫れるように生徒からの質問を受け、説明する。

			△認めない（選ばない）。 ・義足を付けており、科学的に証明できていないのに出せない。（公平でない） ・健常の人だけしか出場できない決まりがあるのでは。 ⇔彼の努力や記録は評価しないの？ ⇔自分がレーム選手本人だったら？	◇４～５人班で議論する際に円滑に移れるように一人ずつに付箋を配布し、付箋に直接、理由を書くようにする。 ◇生徒の理由（意見）について掘り下げるような質問を行えるように机間巡視（支援）を行う。
まとめ (15)	○自分を振り返り、偏ったものの見方や公正な接し方について考える。 ○教師の話を聴く。	一斉 ↓ ワークシート (個別)	＊今日はレーム選手の人生を左右するような判断をしてみたけれど、「正しい判断」ができたかな？ （追加）リオの時の判断は間違っていたのかな？ ＊「大英断を下す」という言葉について知っているか。 ・非常に優れた（＝最良の）判断。 ＊振り返ってみよう。 ＊生活や今日の話合いを受けて、これからどうするかを書いてみよう。	**☆議論の中で、どんな話し合いだったのか、意図的な指名を行い、班から出た意見を発表する。** ◇リオデジャネイロの出場について訪ね、クラスでの出来事を話し、身近なものと関連づけるようにする。 ◇ものを選んだり、この先選挙や班決め、行事のときに人を選んだりする機会のときに何を判断材料にするのか。何が最良の判断なのかを考えさせて終わりにする。 ◇振り返りについては発表しない。ただ、発表してくれる人がいれば２名程度発表する。

Ⅵ　板書計画（黒板の横にホワイトボードを用意し、写真や生い立ちを掲示する。）



３　児童生徒の障害理解教育パッケージ　終わり